

国語科学習指導案(第1公開)

1 単元名 論理を捉えて

2 本時のねらい

賛否両方の立場の意見を想定し根拠を考える活動を通して、より建設的な討論が進められることに気づき、自らの意見を多角的に分析したり、考えの幅を広げたりすることができる。

3 本時の展開(4/7)

	学習活動(・生徒の反応、意見)	指導・援助(■研究内容 ○手立て)
つかむ	1 テーマ「中学生にスマートフォンは必要か。」の、自分の意見ばかりを並べた悪い討論の例、良い討論の例を見て、気付いたことを交流する。(10分) ・具体的な数値などの根拠がない。 ・「いや、」と否定の言葉を使っている。 ・言い合いばかりである。 ・自分の意見しか言っていないで、押し通そうとしている。 ・相手の意見を否定せずに共感している。 ・相手の意見を受け止めつつ、気になったところを質問している。 ・反論をしてそれに対して答えることで、意見が深まっている。 2 本時の課題を共有する。(3分) 共感や反論を大切にして討論をし、意見が深まる実感をもとう。	■視点Aに関わって ○生活の中で、班や学級で話し合いをする際、相手の意見も事前に想定しておくことで、建設的で、有意義な話し合いをすることに繋がる。A-(2) ■視点Bに関わって ○実際に行う討論をイメージできるように、パワーポイントを用い、討論の流れを提示する。B-(1) ○悪い討論、良い討論の例を挙げ、どちらが良いのかを考えることを通して、共感・反論に気付かせ、課題化する。B-(1) ■視点Cに関わって ○集めた根拠についてどれをどのように使うと良いのかイメージできていない生徒に対して、班で交流を促すことで、確認できるようにする。C-(1) ○予想した異なる立場の人の意見に対応できる根拠を、班と相談しながら根拠を選ぶよう伝える。C-(1) ○次回からの見通しをもって取り組むことができるようにするために、実際の討論と同様の隊形でミニ討論会を行うように伝える。C-(2) ○ミニ討論会が始まる前、司会者は客観的な立場から見て、異なる立場を想定することはどのような効果があるのかを見ておくよう話す。C-(2) ○反対の意見が考えられない生徒が、具体例を調べることができるようにするために、タブレットを用いて調べることを提案する。C-(3)
考える	3 同じテーマについて、事実をもとに班の中で立場を決定して意見と根拠を考えるとともに、反対の立場を想定し、その考えとそれに対する答えを考える。(15分) ・「友達や家族といつでも電話やメールで連絡が取れる。」という事実を提示する。 ・賛成の立場では、常に友達と連絡が取れるため友達と仲良くなれる。 ・相手の反論を想定すると、自分が勉強しているときに連絡が来ると、それに返信したくなるため、プライベートの時間がなくなるのではないか。それに対する答えとして、「確かにすぐに連絡に返したくなる。しかし、スマホの設定で、通知が一定時間来ないようにすることもできるため、それに対応するのはどうか。」とする。	
深める	4 ミニ討論会を行い、共感や反論によって意見が深まることを実感する。(15分) ・共感の言葉や、相手を受け入れるような聞き方をすることは大切だ。 ・反対の立場を想定することで、自分の意見がより良いものになる。 ・Aさんの「確かに私もその意見には賛成です。」という発言が良い。 5 討論会の振り返りを行う。(5分) ・Bさんの、共感を示した上で反論をする発言は良かった。 ・相手の立場を尊重しながら発言することは大切だ。 ・どのような順序で話すかが重要だ。 6 本時の授業を振り返り、次時への見通しを確かにする。(2分)	
まとめる	異なる立場の相手に伝える際は、押し付けるような話し方にならないように気をつける。次回は相手を尊重した伝え方を考えたい。	【評価規準】 ◆思考・判断・表現◆ 異なる意見を想定し、それに対する答えを考え、ミニ討論会で活用することで、意見が深まり、考えの幅を広げることができる。

1 単元名

価値を見いだす ～発想を転換し、身近なものの新しい側面に光を当てる～

2 単元について

本単元は、自分が今までの人生で獲得してきた知識や経験に基づいた価値観、考え方について、発想を転換して考えることを通して、身近なものの新しい側面に気付く、これからの人生に活かせるようにすることをテーマにしている。

教材である『「不便」の価値を見つめ直す』は、不便であることは良くないことであり便利であることは良いことであるという、生徒があたりまえに感じている価値観について、発想を転換して、身近なものの新しい側面に気付くことができる教材であると考えられる。筆者の言う「不便益」の考え方を理解して、「不便の中の良い面」に目を向けて世界を多様に見ること」は本当に重要かということについて、自分の考えを支える根拠をもって、明確に自分の考えを述べる活動を通して、世の中の自分の価値観や常識について広い視野で見て考える力や、表現力を磨いて周りの人々と意思疎通していく力を身に付けていきたい。

3 育成を目指す資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・「要約」とはどのようなものか、「要約」はどんな時に用いるとよいのか、という有用性を知ること ・自分の考えをまとめる際の立場の明確化や、考えを支える根拠を明確に示すことの重要性について理解すること	・目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができること ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにして、根拠を明確にしながら自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること	・自分がまとめた要約の文章を、小集団の仲間と検討し合いながらよりよい要約となるように加筆、修正しようとする態度 ・自分の考えが、より読み手に伝わりやすいように、根拠や表現について小集団の仲間と検討し合いながら、よりよい文章としてまとめようとする態度
国語科の見方・考え方		
・自分の思いや考えを深めるために、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味付けること。		
本単元で重点的に働かせる見方・考え方		
・筆者の主張や、主張を支える根拠となる言葉はどれかということを考えて本文を精読しまとめたり、読み取った筆者の主張に対してどのような言葉を用いれば、自分の考えを明確に示せるか考えて表現したりすること。		

4 研究主題に関わって

視点A 単元構想図の工夫

(2) 学びの連続性の明確化

本教材の出口の言語活動として、『筆者の言っていることは、本当にそうか?』ということについて、根拠を明確にして自分の考えを書く活動を行う。そのためには、まず筆者の説明や主張の内容を的確に捉えることが大切である。第1時で、要点を捉えるための手段として要約の重要性に触れて、自分の考えを書くために読み取りや要約を行っていく意欲をもつことができるようにする。第2時や第3時が、本時の第4時につながっていることを実感できるように、導入や終末に現時点での自分の考えをまとめ、交流する時間を設定する。

視点B 必然性のある課題化

(1) 生徒が学ぶ意欲をもつことができる魅力ある導入の工夫

「便利になることは良いことだ」という誰もが常識的にそう思う価値観を覆すような筆者の提案に対して、自分ならどう考えるかをまとめる活動が、生徒の知的好奇心につながり、書こうとする意欲につながると考える。

(2) 本時「どのような力を付けるのか」「何を考えたり深めたりするのか」生徒が分かる課題設定

「説得力のある意見文はどうしたら書けるのか」、そして、「その知識を踏まえて実際に意見文を書くのだ」と、見通しがもてるように、発問形式で課題設定する。

視点C 主体的な学びを生み出す指導・援助の在り方

(1) 個のつまづきに応じた指導・援助の工夫

どんな意見文が説得力のある意見文かを、説得力のあるモデル文Aと説得力のないモデル文Bとを比較することを通して、実感できるようにする。実感できることが、その後の主体的な活動につながると考える。

黒板に掲示するだけでなく、生徒の手元にもモデル文を渡し、書き込んだり、線を引いたりできるようにする。

自己の考えを生み出すことに苦手さを感じる生徒に対して、教師が小集団で学び合う様子を見届け、アイデアを生み出している小集団のやり方を生徒に広めたり、伝えたりして、その後の小集団での学び合いにつなげるように指導する。

(2) 意図的な学習形態の工夫

生活班を基盤として3～4人の小集団を編成し、課題提示以降は、生徒自身が学び方を選択できるようにする。個人追究、ペア交流、小集団交流を、必要に応じて使い分け、主体的に学べるようにする。

(3) 効果的な ICT の活用

意見文を書く際には、原稿用紙に書くか野線のみが書かれた用紙に書くか、タブレットの word 機能を用いてまとめるかを選択できるようにすることで、書くことへの抵抗を少なくしたり、主体的な学びにつなげたりする。

5 本時のねらい

筆者の考え・主張に対して、自分の立場や根拠を明確にした意見文をまとめる活動を通して、自分の考えを確かなものにして、根拠を明確にしなから自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。

6 本時の展開(5/5)

	学習活動(・生徒の反応、意見)	指導・援助(■研究内容 ○手立て)
つかむ	1 前時までの学習の流れを確認する。(2分) - 要約によって、筆者の考え・主張の要点や考えを伝えるための説明の要点を理解できた。 - 筆者は、読み手に理解しやすいように説明の内容や構成を工夫していたことがわかった。 2 本時の課題を共有する。(3分) - 良い意見文と悪い意見文の違いは何だろう?→説得力がある。 - 説得力があるとなぜ良いの?→読み手が納得できるから。	■視点Bに関わって ○「便利になることは良いことだ」という誰もが常識的にそう思う価値観を覆すような筆者の提案に対して、自分の考えをもつという活動が、生徒の好奇心をかきたて意欲につながる。B-(1) ○「説得力のある意見文はどうしたら書けるのか」、そして、「その知識を踏まえて実際に意見文を書くのだ」と、見通しがもてる課題設定する。 ○説得力のある意見文を書きたいと思えるように、課題につなげる発問を工夫する。B-(2)
	筆者の考えや主張に対して、説得力のある意見文をまとめよう。 3 説得力のある意見文Aと説得力のない意見文Bを比較して、Aの良さに気付く。(15分) - Aは、はじめに自分の立場が明確に示されているから、どんな意見を述べようとしているかわかりやすい。 - Aは、筆者のどの説明に対する意見なのかが書かれているから要点を絞って意見がとらえやすい。 - Aは、なぜそう考えるかの根拠が明確に書かれているから意見に説得力がある。 - Aは、根拠だけでなく事例もしっかりと書かれているからイメージしやすい。 4 自分の意見文の立場や筆者のどんな説明に対する意見か、自分の意見を支える根拠と事例を考える。(10分) - 筆者の考えや主張には、賛成だ。 - 筆者の、「不便な中のよい面」に目を向けて、世界を多様に見てはどうか」という考えに対して、自分も便利さを求めて進歩する技術やその情報を鵜呑みにしては、主体的に社会を生きていくことができないと考える。 - 根拠となる事例としては、スマートフォン、タブレット等のSNSの使える機器の活用方法について挙げるとよい。 5 考えたことをもとに、意見文にまとめる。(15分) - 筆者のどんな説明に対する意見かは、どこに入れたらいいか工夫したい。 - 自分の意見を支える根拠は、どれくらい書けば効果的か考えたい。 - 意見文の構成は、どうすれば一番相手に伝わりやすいか工夫したい。 - はじめに「」を用いるとインパクトのある意見文になりそうだから取り入れたい。 6 本時の授業の振り返り(5分) - 今日は、説得力のある意見文の書き方がわかった。 - 実際に○○の事例を取り入れて説得力を高めることができた。 - 自分の立場を明確に示すことができたが、筆者の主張のどの部分に対する意見か、また、細かく意見を書いた方が伝わるということがわかった。	■視点Cに関わって ○どんな意見文が説得力のある意見文かを、説得力のあるモデル文Aと説得力のないモデル文Bとを比較することを通して、実感として理解できるようにする。実感できることが、その後の主体的な活動につながると考える。また、モデル文には、文章しか書かれていないものと、どの部分が立場でどの部分が根拠なのかわかるようにしたものなど、何パターンかを用意して選べるようにする。立場や根拠、事例や引用がどのようなものかわかる資料を用意したりもする。C-(1) ○黒板に掲示するだけではなく、生徒の手元にもモデル文を渡し、書き込んだり、線を引いたりできるようにする。C-(1) ○自己の考えを生み出すことに苦手さを感じる生徒に対して、教師が小集団で学び合う様子を見届け、アイデアを生み出している小集団のやり方を生徒に広めたり、伝えたりして、その後の小集団での学び合いにつなげるように指導する。 C-(1) ○生活班を基盤として3~4人の小集団を編成し、課題提示以降は、生徒自身が学び方を選択できるようにする。個人追究、ペア交流、小集団交流を、必要に応じて使い分け、主体性に学べるようにする。C-(2) ○意見文を書く際には、原稿用紙に書くか、罫線のみが書かれた用紙に書くか、タブレットのword機能を用いてまとめるかを選択できるようにすることで、書くことへの抵抗をやわらげたり、主体性につなげたりする。C-(3)
考える		
深める		
まとめる	まず、自分の立場を明らかにして、筆者のどの説明に対する意見かを示し、根拠だけでなく根拠を支える事例を的確にまとめれば、説得力のある文章を書くことができる。	【評価規準】 ◆思考・判断・表現◆ 前時に要約した筆者の考え・主張に対して、説得力のある意見文の特徴を理解して、構成や内容を工夫して意見文にまとめることができる。

第1学年 価値を見いだす ～発想を転換し、身近なものの新しい側面に光を当てる～ 単元構想図(全5時間)

【単元のねらい】 ・筆者のいう「不便の中の良い面」に目を向けて、世界を多様に見ること」は本当に重要かということについて、要約することで筆者の説明を明確に理解し、根拠をもって自分の考えをまとめることができる。	【単元での評価規準】 <知識・技能> ・「要約」とはどのようなものか、「要約」はどんな時に用いるとよいのか、という有用性を知り、身につけることができる。 ・自分の考えをまとめる際の立場の明確化や、考えを支える根拠を明確に示すことの重要性について理解できる。 <思考・判断・表現> ・目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができる。 ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにして、根拠を明確にしながら自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。 <主体的に取り組む態度> ・自分がまとめた要約の文章を、小集団の仲間と検討し合いながらよりよい要約となるように加筆、修正しようとしている。 ・自分の考えが、より読み手に伝わりやすいように、根拠や表現について小集団の仲間と検討し合いながら、よりよい文章としてまとめようとしている。	【将来や社会とのつながり】 ・相手の考えや伝えたいことをよりの確に理解したり、相手の考えに対して自分の考えを述べたりする際には、話の主要部分を捉える要約の力が必要になる。また、的確な根拠を設定して自分の考えを述べることで、自己の考えがより相手に伝わり、相互理解による、より良い人間関係の構築につながるのではないかと考えた。
【単元開始時の生徒の意識】 ・世の中は、生成 AI や情報通信機器の発達等をはじめとして、便利さを追求する方向に進んでいる。また、便利になるということは、良いことだという価値観を誰もがもっている。 ・教科書の本文に載るような筆者の考えや主張の記述は、どれもいやおうなく正しいものだと思います。 ・世の中の活動の流れや、自分より地位やキャリアが上の人間の発言には、疑うことをせずに鵜呑みにする意識がある。		【単元終了後の生徒の意識】 ・『「今の世の中の流れをそのまま受け入れてはいけな。」確かに、便利であることは素晴らしいことだ。しかし、筆者のいうように、ただ盲目的に与えられる情報を鵜呑みにしては、主体的に社会を生きていくことはできないだろう。AI 技術の介入や SNS の使える機器の活用方法についても、どのように活用していくかを自分で考えていくことで、より効果的にツールを活用して豊かな生活を送ることにつながるだろう。』 ・自分の考えを表明でき、要約や自分の考えを支える根拠を、これからも活用していくことは大切だ。

『筆者の言っていることは、本当にそうか？』要約を用いて理解し、根拠を明確に考えを書こう。

第3時 筆者の考え・主張や、それを支える説明の要点を捉えよう。

【◎思考・判断・表現】

『この文章を読んだことのない人に分かるように説明する』という目的に応じて、必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができる。また、自分がまとめた要約の文章を、小集団の仲間と検討し合いながらよりよい要約となるように加筆、修正することができる。

○筆者の考え・主張に着目して要約することを通して、本論のどの部分が繋がっていて、必要な部分かということに気付き、説明内容を解釈することができる。また、まとめた要約について、『読んだことのない人に分かるように説明する』という目的で複数の目で検討することを通して、自分の要約の意図をあらためて確かめたり、筆者の説明の本当に重要な部分を捉えたりすることができる。

◆活動内容

- ・筆者の考え・主張を要約し、要点を理解する。
- ・筆者の考え・主張につながる本論の説明を要約し、要点を理解する。
- ・要約の目的や視点に沿って仲間の要約文を読み、良い点や課題点を伝え合う。
- ・仲間からの助言をもとに、自分の要約を推敲し、加筆、修正する。

第2次 3時

筆者の考えと、考えに至るまでの説明を要約する。

第4時 筆者の考えや主張に対する自分の考えを根拠をもってまとめよう。

【◎思考・判断・表現 / ☆主体的に学習に取り組む態度】

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにして、根拠を明確にしながら自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。また、自分の考えが、より読み手に伝わりやすいように、根拠や表現について小集団の仲間と検討し合いながら、よりよい文章としてまとめることができる。

○筆者の考え・主張に対して、自分の立場を明確にして、根拠のしっかりした意見文をまとめる活動を通して、自分の考えを確かなものにして、根拠を明確にしながら自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。

◆活動内容

- ・説得力のある意見文はどんな意見文かを交流する。
- ・自分の立場、筆者のどんな説明に対する意見か、自分の考えを支える根拠を明確にする。
- ・どのような構成で意見をまとめればよいか検討する。
- ・試行錯誤しながら、自分の意見文をまとめる。

第3次 5時

立場や根拠を明確にして、自分の考えをまとめる。

第1時 筆者の説明に興味をもち、課題追究の見通しをもとう。【◎知識・技能】

要約とはどのようなものか、要約の有用性について理解することができる。

○筆者の考え・主張について大まかに捉えることを通して、筆者はなぜその考え・主張に至ったかをもっと理解したいという思いや、筆者の考え・主張に対して自分の考えを書きたいという意欲をもつことができる。

◆活動内容

- ・便利になることは良いことだという価値観を共有する
- ・本文の範読を聞き、大まかに主張を捉え、教材を貫く課題につなげる。
- ・要約とはどのようなものか、有用性について理解する。

第1次 1・2時

文章の内容を捉える。

第2時 筆者は『不便益』について、どのように説明しているだろうか。【◎思考・判断・表現】

次時の要約につなげるために、本論の筆者の説明内容や構成を読み取り理解することができる。

○筆者の考えや主張につなげるための、説明の中心となることさらに着目し、説明内容や構成の特徴を読み取ることを通して、次時の要約につなげることができる。

◆活動内容

- ・「不便益」とはなにか、筆者の定義を確かめる。
- ・『不便益』について、四つの視点や事例を手掛かりにして、より理解を深める。

第5時 仲間の文章を読んで、自己の考えを広げよう。

【◎思考・判断・表現】

仲間の文章から、自分にはない考え方や、その考え方に至った根拠を捉えて、自分の考えの広がりや深まり、付いた力についてまとめることができる。

○自分の考えを的確にもつことは大切なことだが、他者の考えを取り入れたり、自分の考えと比べたりすることで、より確かな自己の考えにすることができる。

◆活動内容

- ・交流の視点を共有する。
- ・様々な仲間の考えを読んで、自己の考えを見つめる。

社会科学習指導案(第1公開)

1 単元名 国の政治の仕組み

2 本時のねらい

合唱取組期間の活動場所の割り当てを考える活動を通して、「公正」及び「効率」の視点が身近に存在していることに気づき、今後の裁判の学習に主体的に取り組もうとする態度を養う。

3 本時の展開(10/15)

	学習活動(・生徒の反応、意見)	指導・援助(■研究内容 ○手立て)
つかむ	1 前時までの国会・内閣の役割について確認するとともに、学校における同様の役割をもつ機関を想起する。(2分) ・生徒会や議会があるな。 ・先生たちは職員会があるな。	■視点Aに関わって ○既習事項と生徒の日常生活を、生徒の意識に根差しながらつないでいく。A-(2)
	2 現在の学校生活の中で、話し合う必然性のある内容を問い、課題を設定する。(3分) 合唱コンクール取組期間中の活動場所の割り当てを考えよう。 【考える条件】 ・取り組み期間は、11月第1週～第3週 ・活動時間は、朝活動10分、昼休み15分、放課後45分 ・活動場所は、体育館アリーナ、音楽室、各教室で、学級ごとに活動	■視点Bに関わって ○現在の学校生活において、話し合う必然性のある内容を取り上げる。B-(1)
考える	3 小集団グループで意見交流しながら、課題追究をする。(10分) 4 グループごとに考えたことを発表し、全体交流をする。(15分) 5 他のグループが考えた案の良さについて交流し、「公正」「効率」の視点到気付く。(5分) ・活動場所が平等に割り振られている。 ・コンクール直前は、どの学級も均等に体育館で練習ができる。 ・体育館と音楽室に空きがない。 ・移動時間を考えて、短い朝活動は教室が練習場所になっている。 「公正」 「効率」	■視点Cに関わって ○ホワイトボードを用いて、学級名を記したマグネットを動かしながら考えさせることで、思考内容を把握し、伝達しやすくする。C-(1) ○学習状況の定着をもとに、事前に割り振った4人1グループで意見交流を行う。C-(2) ○構造的な板書をする中で、「公正」「効率」の視点到気付かせやすくする。C-(1)
深める	6 人権の学習における裁判の事例を想起させ、「公正」「効率」の視点が、裁判にも関わっていることに気付く。(3分) ・足利事件の取り調べは、「公正」の視点到欠けていて、複数回の裁判の手續きも「効率」が悪かったな。 ・裁判において「公正」であることは、何よりも大事になりそうだな。	■視点Aに関わって ○人権の学習においても大切にしてきた「公正」「効率」の視点到をもとに考えていたことに気付くことができるようにする。A-(2)
	7 今後、裁判について学習し、本当に「公正」「効率」が裁判において大切にされているか(≡人権が大切にされているか)を検証していくことを確認し、単元を貫く課題を設定する。(5分) 裁判のしくみは、本当に国民の人権を守られるものとなっているだろうか。	■視点Aに関わって ○既習内容とのつながりを意識させながら、単元を貫く課題を設定する。A-(2)
まとめる	8 本時の授業のまとめ(感想)を書く。(7分) 今日の授業では、合唱取組期間の活動場所の割り当てを考えました。考えるときに、各学級が平等になること(公正)や、取組以外の活動もある中で、時間を有効的に使える割り当てを考えること(効率)ができました。法の視点是、意外に私たちの身近にあり、これからの裁判の学習でも、人権が守られるものになっているのか考えていきたいな。	【評価規準】 ◆主体的に学習に取り組む態度◆ 合唱取組期間の活動場所の割り当てを、「効率」「公正」の視点到から主体的に追究し、裁判の学習に意欲的に取り組もうとしている。

1 単元名

現代の民主政治と社会 2節 国の政治の仕組み

2 単元について

本単元では、対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、我が国の民主政治の仕組みのあらましを理解するとともに、我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚を育成する。なかでも本時が位置づく司法についての取り扱う単位時間については、学習指導要領において、「(2)民主政治と政治参加」の中に「国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解すること」とある。このことから、司法に関する単位時間(第5時～10時)では、① 裁判のしくみ、② 社会的な公正を守るため裁判の果たす役割が大きく、それによって人権が守られていること、③ 国民権を充実化するため、裁判員制度による市民の司法参加の意義と重要性、の3点を基礎的・基本的内容と捉え学習活動を展開する。

本時で扱う裁判員制度は、裁判に国民の感覚を取り入れ、国民の理解しやすい裁判を実現することを意図して平成21年5月から始まった制度であり、裁判員は衆議院議員選挙の選挙権を有する者から無作為に抽出すると規定されている。つまり成人になった誰もが裁判員になる可能性があるということである。そこで、司法に関する単位時間の最後の部分に「裁判員制度」について扱う時間を設け、将来、裁判員として裁判員制度を支えることとなる中学生に対し裁判員制度についての心構えをもたせたい。また裁判員制度は、「刑事裁判」という「司法」の重要部分を大きく変革させる制度であり、国民生活に与える影響も多大なものと言えるので、裁判員制度の意義や重要性を理解させ、自らが将来の裁判員制度を担うという意識をもたせたい。

3 育成を目指す資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
- 法に基づく公正な裁判によって国民の権利が守られ、社会の秩序が維持されていることについて理解すること - 司法権の独立と法による裁判が憲法で保障されていることについて理解すること	対立と合意、効率と公正、民主主義などに着目し、裁判の仕組みや裁判員制度について、多面的、多角的に考察、構想し、表現する力を養うこと	主権者であるという自覚をもち、自分の意思を政治に反映させる方法について意欲的に追究するなど、主体的に社会に関わろうとする態度
社会科(公民的分野)の見方・考え方		
社会的事象を、政治、法、経済などに関わる多様な視点(概念や理論など)に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること。		
本単元で重点的に働かせる見方・考え方		
よりよい制度の実現に向けて、法に関わる事象(裁判員制度の在り方)を多面的・多角的に考察し、自らの生き方に生かそうとすること。		

4 研究主題に関わって

視点A 単元構想図の工夫

(2)学びの連続性の明確化

身近な生活のなかに法の視点(効率と公正)が存在することを生徒が気付く場として、裁判所に関する学習の入り口である第5時に、「法と私たち」を位置付けた。効率と公正の考え方については、個人の尊重と日本国憲法(教科書第2章)の入り口で学習するが、生徒にとって身近な学校生活における課題を解決するための方策を考え、効率と公正という法の視点に基づきながら問題解決を図ろうとしていることに気付かせる場をここに位置付けることで、法について学ぶことの必要性を感じ取ることができるようにする。また、本単元の全11時間を、国会(第1時、2時)、内閣(第3時、4時)、裁判所(第5時～10時)、三権分立(第11時)という4つのパートとして捉え(単元構想図①)、各パートの関連性を捉えるとともに、裁判所に関する学習については、単位時間の役割を明確にする(単元構想図②)ことにより、単位時間の学びの連続性を生み出し、生徒が学びのつながりや思考の深まりを実感することで、主体的に学ぶ姿につなげたい。

視点B 必然性のある課題化

(2)生徒が学ぶ意欲をもつことができる魅力ある導入の工夫

国民の感覚が裁判に取り入れられることで、より公正な裁判が実現できるという、裁判員制度が導入された経緯と、裁判員制度に関する世論調査の結果、70%の人が参加したくないと答えているという事実から、国民の感覚を取り入れたいのに、国民は裁判員制度に前向きではないという矛盾に気付かせ、「このままでよいのか」と問い返すことで、「裁判員制度を国民にとって更に有益なものにしていくためにはどうすればよいのだろうか。」という課題を生み出したい。

視点C 主体的な学びを生み出す指導・援助の在り方

(1)個のつまずきに応じた指導・援助の工夫

社会科の学習では、生徒一人一人が主権者として、社会的事象に対し、自らの考えをもつことが何よりも大切だと考え、裁判員制度の現状を端的に示すとともに、SNSでつぶやくような感覚で考えをつくるように促したい。また、既習内容を想起しやすいように、前時まで用いたものと同じ資料を用いていきたい。

(2)意図的な学習形態の工夫

①前後左右に座っている仲間と交流し、自分の意見を明確にする場、②意図的に仲間を選択して交流し、多面的・多角的に考える場、③仲間の考えの変容に触れる場としての全体交流という3段階の交流を位置付けたい。

5 本時のねらい

裁判員制度を国民にとってより有益なものにするための方法を考える活動を通して、制度を見直す際には、裁判員を含む様々な人の人権に配慮することや、公正・効率の視点から考えていくことが大切だということに気付き、主権者として、裁判に主体的に関わろうとする態度を養うことができる。

6 本時の展開(10/11)

	学習活動(・生徒の反応、意見)	指導・援助(■研究内容 ○手立て)
目的 つかむ	1 前時の学習を振り返り、裁判員制度が導入された経緯について確認する。(1分) ・国民の感覚が裁判に入り、より公正な裁判が実現できる。 ・迅速に裁判が進む。・分かりやすい裁判が行われる。	■視点Bに関わって ○前時までの学習の過程がわかる掲示やペーパースートを用い、裁判員制度が取り入れられた目的を振り返りながら課題化する。B-(1) ○裁判員制度に関する世論調査(裁判員制度における刑事裁判への参加意識)の結果、70%の人が参加したくないと答えていることから、裁判員制度には問題点があることに気付かせ、問題点の具体を示していく。B-(2)
	2 資料から裁判員制度の抱える問題点についてつかみ、課題をつくる。(4分) 裁判員になるまでの手続きが大変である。 死体の写真を見なければならず、精神的負担が大きい。 裁判員をしている間、仕事を休まなければならず、うまく仕事に復帰できるかどうか不安である。 自らの判断が、被告人の人生を左右すると思うと、荷が重い。 ☆国民の感覚を取り入れたいのに、国民は裁判員制度に前向きではない現状がある。	
矛盾	現状	■視点Cに関わって ○裁判員制度の現状を端的に示し、SNSでつぶやく感覚で、考えをつくるように促す。C-(1) ○意見交流を以下の3段階で行う。C-(2) ①前後左右の仲間と(自分の意見を明確にする場) ②意図的に仲間を選択して(立場が同じもしくは違う仲間と多面的・多角的に考える場) ③全体で(仲間の考えの変容に触れる場) ○誰がすべきことなのかを明確にしながら考えるように促す。C-(1) ○既習事項を想起させながら、裁判の意義に立ち返り、裁判が人権を守るべきものだということに気付くことができるようにする。C-(1)
考える	深める	【評価規準】 ◆思考・判断・表現◆ 裁判員制度が国民にとって更に有益なものになるための具体的な方法を、人権や公正・効率の視点で考えることができる。 ◆主体的に学習に取り組む態度◆ 主権者として裁判に関心もち、主体的に関わろうとしている。
まとめる	まとめる	■視点Aに関わって ○生徒のまとめのなかで、本時の学習内容と将来や社会とのつながりについて触れている部分に焦点を当てる。A-(1)
	3 裁判員制度を国民にとって更に有益なものにしていくための方法を考え、交流する。(30分) ・裁判員になるまでの手続きをさらに簡略化した方がよいと思うが、簡略化しすぎて、相応しくない人が選ばれてはいけないう。 ・裁判員に事件について説明する資料を工夫するべきだな。 ・裁判員にも報酬があった方がよいのではないかな。でも、高ければよいというわけではないな。 ・裁判員の数を増やすと、もっと国民の感覚が入ると思うな。でも、多すぎても結論を出すのに時間がかかるな。 【深めの発問】 裁判の結果、無実にもかかわらず有罪となり、一生辛い思いをした方もいたけど、更に有益なものにするためには何が大切かな。 ・裁判員制度がより有益なものになるためには、人権が守られる制度になっているかどうかという視点で考えていくことが大切だと思う。私たち国民が裁判に関心をもち、考えていくことが大切ではないかな。	
	4 本時のまとめを書く。(8分) 5 本時のまとめを発表する。(7分) 私は裁判員制度が国民にとって更に有益なものになるためには、裁判のために会社や学校を休まなくてはならない期間を短くすべきだと考えました。私は裁判員の立場から考えていたけれど、交流を通して、被告人や被害に遭った人の立場からの考えを聞き、一定程度の期間は必要なのではないかと思い直しました。様々な立場の人々の人権に十分に配慮しながら、裁判そのものが公正であることや効率的に進められることも考慮しなければならないと感じました。一人一人が主権者として、裁判に関心をもち、積極的に関わっていくことが何よりも大切だと思うし、私もそうしたいです。	

単元構想図

第3章 現代の民主政治と社会

2節 国の政治の仕組み

単元のねらい

- ・ 国民が願いを実現し、秩序ある豊かなよりよい社会にしていけるためには、政治家や裁判官などに権力の扱いを任せるのではなく、国民が主権者としての自覚をもち、政治や司法に積極的に参加していくことが必要だと考えることができる。
- ・ 国会・内閣・裁判所、それぞれの役割や仕組み、働きを理解し、三権相互や三権と国民がどのように関わっているか理解することができる。

単元の入り口の意識

最高法規である日本国憲法の三本柱の1つに『国民主権』があり、国民の意見が反映される世の中が目指されていた。国民の意見を政治に反映させる仕組みとして『選挙』について学習したが、これから学習する国会、内閣、裁判所の仕組みは、本当に国民の意見が反映されるものとなっているのだろうか。主権者である国民の一人として、政治の仕組みについて知りたいな。

国会・内閣・裁判所の仕組みは、本当に国民の意見が反映されるようになっていくのだろうか。
私たちが政治にどのように関わっていくべきなのだろうか。

国会

国会の仕組みと国民とのつながり

第1時 国会の地位と仕組み

- これまでの学習を振り返りながら、単元の全体像をつかむ場
 - 国会の地位としくみについて理解する場
- 主権者である国民が直接選んだ代表者によって構成されるから、国権の最高機関なのだ。

第2時 国会の働き

- 国会の仕事について理解する場
 - 衆議院と参議院の違いや、二院制の意義について理解する場
- 国民とより強く結び付いている衆議院の権限を強くしている。

内閣

内閣の仕組みと国民とのつながり

第3時 行政の仕組みと内閣

- 内閣の組織や、内閣と国会の結びつきについて理解する場
- 内閣の構成員は、国民が直接選ぶわけではないが、国会と内閣は連帯責任を負うという仕組みであり、内閣も国民とつながっている。

第4時 行政改革

- 中央省庁が再編された理由を考える活動を通し、社会の変化とともに行政の役割も変化していることを理解する場
- 政府が国民の生活に介入しすぎるのではなく、ある程度国民に任せるとするのが行政の方針だ。その分、私たち国民が責任をもち行動していかなければならない。

裁判所

裁判の仕組みと国民とのつながり

第5時 法と私たち

※効率と公正、対立と合意

第6時 裁判所の仕組みと働き

※裁判所の種類、三審制、司法権の独立

第7時 裁判の種類

※民事裁判と刑事裁判

第8時 裁判の課題

※冤罪事件

第9時～10時 司法制度改革『裁判員制度』

詳しくは別紙参照

第11時 三権分立

- 国会・内閣・裁判所のつながりについて、これまでの学習内容をもとに総合的に考える場

単元の出口の意識

国会・内閣・裁判所は自分たちの生活とは縁遠いものだと思っていたけれど、三権はバランスよく保たれていて国民の意見を反映する仕組みになっているんだ。私たちが主権者として、政治や裁判に関心をもち、関わろうと努力することが大切なのだ。

第3学年 現代の民主政治と社会 単元構想図（全11時間のうち裁判に関わる6時間分）

【単元のねらい】 ・裁判の仕組みを理解したり、裁判の課題を考えた りする活動を通して、法が私たちの身近にあること や、裁判は私たちの人権を守るための制度である ことに気づき、主権者として司法に積極的に参加 することが大切だと自覚することができる。	【単元での評価規準】 <知識・技能> ・法に基づく公正な裁判によって国民の権利が守られ、社会の秩序が維持されていることについて理解している。 ・司法権の独立と法による裁判が憲法で保障されていることについて理解している。 <思考・判断・表現> ・対立と合意、効率と公正、民主主義などに着目し、裁判の仕組みや裁判員制度について、多面的、多角的に考察、構想し、表現することができる。 <主体的に学習に取り組む態度> ・主権者であるという自覚をもち、自分の意思を政治に反映させる方法について意欲的に追究するなど、主体的に社会に関わろうとしている。	【将来や社会とのつながり】 ・社会の秩序が保たれるには「決まり」が必要であることを知り、法や条例など社会の決まりを守ることに生かされる。 ・法やその考え方と関わりながら生きていることを知り、主権者として裁判と積極的に関わっていく。
【単元開始時の生徒の意識】 ・国会や内閣の学習を通して、国の政治の仕組みは、主権者である国民と強く結びついていることがわかった。裁判の仕組みもそのようになっているのだろうか。しかし、裁判は私には馴染みがなく、縁遠いものを感じる。		【単元終了後の生徒の意識】 ・裁判のしくみには、国民の人権を守るための工夫がたくさんあるが、課題も存在しており、司法制度改革が進められている。その一つとして裁判員制度が導入された。これからも、より多くの人々の人権が大切にされ、公正な裁判が効率的に行われるよう、改革を進めていって欲しい。しかし、これは他人事ではない。私は主権者として、これからも裁判に関心をもち、積極的に関わっていくようにしたい。

裁判の仕組みは、本当に国民の人権が守られるものになっているのだろうか。～私たちは裁判にどのように関わっていくべきなのだろう～

第5時 法と私たち

- 【☆主体的に学習に取り組む態度】**
 ○身近な生活のなかに法の視点が存在することに気づき、裁判の学習の見通しをもつことができる。
◆合唱コンクール取組期間中の活動場所の割り当てを考える。
 ・私たちは、全員が納得できる結論を出すために、日ごろから「公正」「効率」の視点を用いて考えているのだな。裁判の仕組みにおいても、その視点が大切にされているのか追究していきたい。

第6時 裁判の仕組みと働き 【●知識・技能】

- 裁判でも人権を守ることが大切にされていることを理解することができる。
◆裁判の仕組みや制度を調べる。
 ・裁判を慎重に行うために三審制が導入されている。また、裁判官は公正中立な立場で裁く。やはり裁判でも、人権を守ることが大切にされているのだな。

第7時 裁判の種類 【●知識・技能】

- 裁判には、民事裁判と刑事裁判の2つの種類があることや、その違いについて理解することができる。
◆裁判の種類を調べる。
 ・裁判官の令状がなければ逮捕や捜索ができないことや、弁護士をたてられることなど、裁判の手続きの中にも、人権を守る仕組みがあるな。

第8時 裁判の課題 【◎思考・判断・表現】

- 裁判の仕組みは完璧なものではなく、課題も存在することに気付くことができる。
◆徳島ラジオ商殺し事件を題材に冤罪事件について考える。
 ・冤罪事件が今も起きていると知り驚いた。よりよい裁判ができるよう、様々な制度改革を行っていく必要があるな。

第10時 裁判員制度をより有益なものにするためには

- 【◎思考・判断・表現／☆主体的に学習に取り組む態度】**
 ○人権に配慮することや、公正・効率の視点から考えていくことの大切さに気づき、主権者として、裁判に主体的に関わろうとする態度を養うことができる。
◆裁判員制度を国民にとってより有益なものにするための方法を考える。
 ・裁判員制度の改革は、人権に配慮し、公正や効率の視点から考えていくことが大切だ。私は主権者として、これからも裁判に関心をもち、積極的に関わっていきたい。

第9時 裁判員制度の仕組み 【◎知識・技能】

- 裁判員裁判の手続きの流れを理解し、裁判員制度のよさに気付くことができる。
◆裁判員となり、模擬裁判を行う。
 ・冤罪事件が今も起きていると知り驚いた。よりよい裁判ができるよう、様々な制度改革を行っていく必要があるな。

数学科学習指導案（第1公開）

1 単元名 量の変化と比例、反比例

2 本時のねらい

日常生活の事象について、関数を利用して解決する活動を通して、時間と距離の関係が比例であり、2つの数量の関係をグラフ、表、式を用いればよいことに気付く、問題を解決することができる。

3 本時の展開（17/20）

学習活動(・生徒の反応、意見)

指導・援助(■研究内容○手立て)

1 本時の課題をもつ。

学校から東へ 2400m離れた東公園まで、同じ道をAさんは自転車で、Bさんは歩いていきました。また、Aさんが学校を出発したのと同時に、Cさんは分速 180mの速さのランニングで出発し、学校から西へ 1800m離れた西公園に向かいました。学校を出発してからx分後に東へym進むとします。学校を出発してから8分後に、AさんとCさん、BさんとCさんはそれぞれ何m離れていますか。

- ・距離は時間の関数になっているな。
- ・Aさんは10分で東公園についているけど、Bさんは30分かかっている。だから、Aさんのほうが速いな。
- ・8分後にどれだけ進んだかはグラフからははっきりと分からないな。
- ・Cさんのグラフを書くためには、表も使うといいかもしれない。

3人の進行のようすを、表、グラフ、式を使って解決しよう。

2 グラフから分かることを読み取り、課題追究に向かう。

(個人追究⇒全体追究)(30分)

- ・原点を通る直線のグラフだから比例の関係だな。
- ・Aさんは10分で東に2400m進んでいるな。
- ・Aさんの式は $y = 240x$ ($0 \leq x \leq 10$) ($0 \leq y \leq 2400$)だな。
- ・Bさんは30分で2400m進んでいるな。
- ・Bさんの式は $y = 80x$ ($0 \leq y \leq 30$) ($0 \leq y \leq 2400$)だな。
- ・Aの式の240と、Bの式の80の比例定数は速さを表しているな。

x(分)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
y(m)	0	-180									

- ・AさんとBさんは東に進んでいたから+（プラス）で表せるが、Cさんは、西に進んでいるから-（マイナス）で表さないといけないな。
- ・Cさんは10分で西に-1800m進んだな。
- ・Cさんの式は、 $y = -180x$ ($0 \leq x \leq 10$) ($-1800 \leq y \leq 0$)だな。
- ・Cさんの比例定数は-180だな。
- ・3人ともグラフからははっきりとした距離が分からないから式に代入して計算しようかな。
- ・Aさんは $240 \times 8 = 1920$ (m) になるな。
- ・Bさんは $80 \times 8 = 640$ (m) になるな。
- ・Cさんは $-180 \times 8 = -1440$ (m) になるな。
- だから、AさんとCさんは、 $1920 - (-1440) = 3360$ (m)
- 答え 3360m離れている
- BさんとCさんは、 $640 - (-1440) = 2080$ (m)
- 答え 2080m離れている

3 まとめ(3分)

読み取れるときは、すぐに 2 つの数量の関係を見つけることができる。グラフから正確に読み取れないときは、式や表を活用すると答えを求めることができる。

4 教科書 P157 学びにプラスに取り組む。(7分)

- ・Aさんは10分で2400m進んで、Cさんは10分で-1800m進んでいるから、Aさんが1番速い。
- ・Aさんの比例定数は240だから、東へ分速240m進んだということだな。
- ・Cさんの比例定数が-180だから、西へ分速-180m進んだということだな。
- ・速さを負の範囲に広げることでもできるんだな。

■視点Cに関わって

○ICTを活用してAさんとBさんの速度の違いをシミュレーションで視覚的に捉えられるようにする。C-(3)

■視点Bに関わって

○AさんとBさんのグラフから読み取れることを発表させていく中で、問題文にあるCさんについて触れ、Cさんの進行のようすを表、グラフ、式で表す必要性に気付くようにし、課題を設定する。B-(2)

■視点Cに関わって

○学校や東公園がグラフのどこに表されているかを全体で確認する。C-(1)

○西の方向に向かうCさんの比例定数を-180と表せることを、シミュレーションソフトを通して考えることで視覚的に捉えられるようにする。C-(1)

■視点Cに関わって

○8分後に3人がどれだけ離れているかについて解決することが難しい生徒については、机間指導の際に5分後のグラフについて考えるように助言し、本時の課題につなげられるようにする。C-(1)

【評価規準】

◆思考・判断・表現◆

時間と距離の関係を比例だと捉え、比例の式を利用して問題を解決することができる。

■視点Aに関わって

○日常生活の中で反比例を利用した事象を次時で扱うことをおさえる。A-(2)

つかむ

考える

深める

まとめる

1 単元名

相似と比

2 単元について

我々の身の回りにある様々なものについて、材質、重さ、色などを除いて、「形」、「大きさ」、「位置関係」という観点から捉え考察することがよくある。このような立場でものを捉えたものが図形であり、それについて論理的に考察し表現することが、中学校数学科の図形領域における指導の大切な一つとされている。そして、第1学年では「平面図形」と「空間図形」について、第2学年では「基本的な平面図形の性質」と「図形の合同」について学習を進めてきている。

本単元では、「相似の定義とそれを基にした図形の論証」と「相似な図形の性質を利用した図形の計量」が主な内容として取り上げられている。前者については、「平行と合同」における図形の合同についての学習を生かしながら、三角形の相似条件などを用いて図形の性質を論理的に確かめ、数学的な推論の必要性や意味及び方法の理解を深め、論理的に考察し表現する力を養うことを目指していく。また後者においては、基本的な立体の相似の意味を理解し、相似な図形の性質を用いて、図形の計量ができるようにすることを目指していく。本時の学習は、第2節「図形と比」で学習した平行性と線分の比の性質を図形の中に見いだしながら、面積の比を求めていく1時間となる。第3章「相似な図形の面積と体積」の相似比と面積比の学習をにらみながら、単元を構成する節と節をつなぐ1時間としての位置付けであることを念頭に進めていきたい。

3 本単元で育みたい資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
- 平面図形の相似と三角形の相似条件 - 相似な図形の相似比と面積比及び体積比の関係 - 平行線と線分の比	図形の構成要素の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとする態度
数学的な見方・考え方		
- 事象を数量や図形及びそれらの関係についての概念等に着眼してその特徴や本質をとらえること。 - 目的に応じて数、式、図、表、グラフ等を活用しつつ、論理的に考え、問題解決の過程を振り返るなどして、既習の知識及び技能を関連付けながら、統合的・発展的に考えること。		
本単元で重点的に働かせる見方・考え方		
- 三角形の相似条件などを用いて図形の性質を論理的に確かめ、数学的な推論の必要性や意味及び方法の理解を深め、論理的に考察し表現すること。 - 基本的な立体の相似の意味を理解し、相似な図形の性質を用いて図形の計量ができるようにすること。		

4 研究主題に関わって

視点B 必然性のある課題化

(1)生徒が学ぶ意欲をもつことができる魅力ある導入

問題提示の場面では、図形の中にいくつの三角形があるかを問うことで、着目すべき図形を明確にし、課題解決に向けた見通しをもつことができるようにする。さらに、問題②の後半では、各自で三角形の組を設定して面積を比較する活動を仕組んでいる。そのため、様々な三角形の組を選択し、意欲的に問題に取り組むためにも、この導入場面における三角形の発見を大切にする。

視点C 主体的な学びを生み出す指導・援助の在り方

(1)個のつまずきに応じた指導・援助の工夫

問題解決に向けて、どこに着目すればよいかわからない生徒には、三角形の求積公式から何が分かれば面積を求めることができるのかを考えるように助言し、何(底辺と高さ)が決まれば面積の比較ができるのかを明確にしてい。その上で、底辺と高さをどこにするとよいかを問うことで、条件を整理しながら図形を観察することができるようにする。

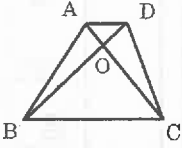
(3)効果的なICTの活用

問題提示の場面では、ICT機器を活用して問題場面を提示することで、全員で問題場面を確認し、学習課題の焦点化ができるようにする。文章から問題場面をイメージすることに苦手意識をもつ生徒が複数いるため、スクリーン上で条件等を確認し、全員で学習課題に向かうことができるようにする。また、追究場面において、着目する辺や高さをとらえることができない生徒には、タブレット上で操作できる図形(ソフト等)を準備し、一緒に図形を操作しながら、課題に対する考えをまとめられるようにする。

5 本時のねらい

台形の中にある2つの三角形の面積の比を考える活動を通して、三角形の面積の比を求めるためには、平行線と線分の比に着目し、底辺や高さをどこにするとよいかを判断するとよいことに気づき、三角形の面積の比を求めることができる。

6 本時の展開(12/21)

	学習活動(・生徒の反応、意見)	指導・援助(■研究内容 ○手立て)			
つかむ	1 問題提示 (7分) 【問題①】 次の図のように、 $AD \parallel BC$ 、 $AD:BC=1:2$ の台形ABCDがあり、対角線の交点をOとする。この図形の中にある三角形どうしの面積について、次の問いに答えなさい。 (1) $\triangle ABD$ と $\triangle DBC$ の面積の比を求めなさい。 (2) $\triangle AOD$ と $\triangle DOC$ の面積の比を求めなさい。  ・三角形の面積だから、底辺と高さが分かれば求めることができるな。 ・面積の比が分かればよいので、実際の辺の長さが分からなくても、比較ができるのではないだろうか。	■視点Bに関わって ○ICT 機器を活用して問題場面を提示することで、全員で問題場面を確認し、学習課題の焦点化ができるようにする。B-(2)C-(3) ○問題提示の場面では、図形の中にいくつの三角形があるかを問うことで、着目すべき図形を明確にし、課題解決に向けた見通しをもつことができるようにする。また、問題②に意欲的に取り組むことができる、足場となるようにする。B-(1)			
	2 課題提示、課題追究、全体追究 (15分) 三角形の面積の比を求めるには何が分かればよいか考えよう。 <解答例> (1) $\triangle ABD$ と $\triangle DBC$ はそれぞれ辺AD、辺BCを底辺とみれば、高さが等しい三角形になっていると考えられるため、底辺の比が面積の比になる。 よって $\triangle ABD$ と $\triangle DBC=1:2$ となる。 (2) 辺AOと辺COをそれぞれ底辺とすれば、高さが等しい三角形になる。 辺AOと辺COの比は、 $\triangle ADO$ と $\triangle CBO$ が、2組の角がそれぞれ等しい相似な三角形であるため、 $AD:CB=AO:CO=1:2$ 。 よって $\triangle AOD:\triangle DOC=1:2$ となる。 ・最初に与えられていない線分の比も相似な三角形の対応する線分の比や平行線と線分の比を使えば、求めることができるよ。 ・高さが同じであれば、底辺の比はそのまま面積の比になるんだね。	■視点Cに関わって ○三角形のどこに着目すれば面積比が求められるか分からない生徒には、三角形の底辺と高さはどこかを問うことで、条件を整理しながら図形を観察することができるようにする。C-(1) ○解決の見通しがもてない生徒や、どこを底辺や高さにするとよいかわからない生徒には、ICT 機器を用いて、一緒に図形を操作しながら、条件を理解することができるようにする。C-(1)(3) ○全体追究において、自分の考えと比較検討しやすくするために、Teams の会議システムを活用して、自分の考えを表示できるようにする。C-(2)(3) ○追究場面では、シミュレーションソフトや図を記載したプリントを準備しておくことで、生徒が何を使って考えるのかを選択できるようにする。C-(1)(3) ○違う三角形を比較している生徒同士、同じ三角形であっても違う考え方を使っている生徒同士を交流させることで、新たな見方を発見できるようにする。C-(2)			
深める	3 まとめ (3分) 面積の比は、どの辺を底辺や高さとするかを明確にするとよい。 また、相似な三角形や、平行線と線分の比に着目すると、最初に与えられていない線分の比を求めることができる。	■視点Aに関わって ○問題②において $\triangle AOD$ と $\triangle COB$ の相似比が1:2であるが面積の比が1:2になっていないことをおさえることで、次節の相似な図形の面積の学習につなげる。A-(2)			
	4 評価問題、練習問題、交流 (20分) 【問題②】問題①の台形ABCDにおいて、 $\triangle COD$ と $\triangle COB$ の面積の比を求めなさい。また2組の三角形の組を選択し、その面積の比を求めなさい。 <解答例> <table><tr><td>$\triangle COD$と$\triangle COB$ 辺DO、辺BOを底辺とみれば高さが等しい三角形になっている。 よって、$\triangle COD:\triangle COB=1:2$</td><td>$\triangle AOD$と$\triangle COB$ $\triangle AOD:\triangle COD=1:2 \dots \textcircled{1}$ $\triangle COD:\triangle COB=1:2=2:4 \dots \textcircled{2}$ $\textcircled{1}\textcircled{2}$より$\triangle AOD:\triangle COB=1:4$</td></tr><tr><td>$\triangle OAB$と$\triangle ODC$ それぞれ$\triangle AOD$と比較すると $\triangle AOD:\triangle AOB=1:2 \dots \textcircled{1}$ $\triangle AOD:\triangle DOC=1:2 \dots \textcircled{2}$ よって$\triangle AOB:\triangle DOC=1:1$</td><td>$\triangle AOD$と$\triangle COB$(別解) $\triangle AOD \sim \triangle COB$より、$\triangle AOD$と$\triangle COB$の高さの比も1:2となる。 三角形の面積公式より $\triangle AOD:\triangle COB=1:4$</td></tr></table> ・実際の辺の長さが分からなくても、面積の比であれば求めることができるね。 ・高さまたは底辺が等しい2つの三角形との面積の比を使えば、どちらも違う三角形の面積を比べることができるね。 ・三角形の面積を求める公式から、導き出すこともできるんだね。	$\triangle COD$ と $\triangle COB$ 辺DO、辺BOを底辺とみれば高さが等しい三角形になっている。 よって、 $\triangle COD:\triangle COB=1:2$	$\triangle AOD$ と $\triangle COB$ $\triangle AOD:\triangle COD=1:2 \dots \textcircled{1}$ $\triangle COD:\triangle COB=1:2=2:4 \dots \textcircled{2}$ $\textcircled{1}\textcircled{2}$ より $\triangle AOD:\triangle COB=1:4$	$\triangle OAB$ と $\triangle ODC$ それぞれ $\triangle AOD$ と比較すると $\triangle AOD:\triangle AOB=1:2 \dots \textcircled{1}$ $\triangle AOD:\triangle DOC=1:2 \dots \textcircled{2}$ よって $\triangle AOB:\triangle DOC=1:1$	$\triangle AOD$ と $\triangle COB$ (別解) $\triangle AOD \sim \triangle COB$ より、 $\triangle AOD$ と $\triangle COB$ の高さの比も1:2となる。 三角形の面積公式より $\triangle AOD:\triangle COB=1:4$
$\triangle COD$ と $\triangle COB$ 辺DO、辺BOを底辺とみれば高さが等しい三角形になっている。 よって、 $\triangle COD:\triangle COB=1:2$	$\triangle AOD$ と $\triangle COB$ $\triangle AOD:\triangle COD=1:2 \dots \textcircled{1}$ $\triangle COD:\triangle COB=1:2=2:4 \dots \textcircled{2}$ $\textcircled{1}\textcircled{2}$ より $\triangle AOD:\triangle COB=1:4$				
$\triangle OAB$ と $\triangle ODC$ それぞれ $\triangle AOD$ と比較すると $\triangle AOD:\triangle AOB=1:2 \dots \textcircled{1}$ $\triangle AOD:\triangle DOC=1:2 \dots \textcircled{2}$ よって $\triangle AOB:\triangle DOC=1:1$	$\triangle AOD$ と $\triangle COB$ (別解) $\triangle AOD \sim \triangle COB$ より、 $\triangle AOD$ と $\triangle COB$ の高さの比も1:2となる。 三角形の面積公式より $\triangle AOD:\triangle COB=1:4$				
まとめる	5 練習問題(5分) 教科書(大日本図書)P.160 Q1				

第3学年 相似と比 単元構想図 (全20時間)

【単元のねらい】 角の大きさや辺の長さに着目して相似な図形を見だし、三角形の相似条件を使って証明することを通して、論理的に考察し表現する能力を伸ばし、相似な図形の様々な性質を日常場面で活用できることを実感することができる。	【単元での評価規準】 <知識・技能> - 平面図形の相似の意味及び三角形の相似条件について理解している。 - 基本的な相似の意味を理解している。 - 相似な図形の相似比と面積比や体積比との関係について理解している。 - 三角形の面積の比を求めることができる。 - 相似などの図形の性質を使って、線分の長さや角の大きさなどを求めることができる。 <思考・判断・表現> - 三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめることができる。 - 平行線と線分の比についての性質を見だし、それらを確かめることができる。 - 相似な図形の性質を具体的な場面で活用することができる。 <主体的に学習に取り組む態度> - 相似と比の関係のよさを実感して、その関係について考えようとしている。 - 相似と比の関係について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 - 相似と比を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。	【将来や社会とのつながり】 - 調理道具への活用 パスタメジャーや計量スプーンなど、調理器具は相似の関係になっているものが多い。 - 地図や設計図の作成 測量によって調べたものを縮尺し、地図を作製したり、机上で作成した設計図を拡大し、建設等に役立てられたりしている。
【単元開始時の生徒の意識】 - 移動させて重ね合わせることができる図形を合同といい、その性質が分かった。同じ形のまま大きさを変えるときは、どんな性質があるのかな。 - 実際に測ることができない2点間の距離を測ることはできるのかな。		【単元終了後の生徒の意識】 - これまでに学習した合同は相似の特別な場合だったことに驚いたな。 - 実際に測ることができない2点間の距離は、相似と比の性質を活用すれば求めることができたね。 - 授業で学習した問題場面以外にも、相似と比が使われている場面を調べてみよう。

三角形と比に関する図形の性質を見つけ、証明し、活用しよう。

第2節 図形と比

第13時
たしかめよう

第3節 相似な図形の面積と体積
第14時～第16時

第4節 相似な図形の利用
第17時～第19時

章末問題

第10時 中点連結定理

【◎思考・判断・表現】

- 三角形と比の定理の特別な場合としての中点連結定理を理解し、その定理を用いて図形の性質を理解することができる。
- ◆中点連結定理について理解し、定理を活用して新たな図形の性質を証明することができる。
- ・中点連結定理を利用すると、新たに図形の性質が証明できるんだね。三角形と線分の比の定理の特別な場合が中点連結定理だね。

第11時 三角形の角の二等分線と比

【◎思考・判断・表現】

- 三角形の角の二等分線を引いてできる線分の比について調べる活動を通して、角の二等分線に関する図形の性質が成り立つことを知り、いろいろな考えで証明することができる。
- ◆三角形の角の二等分線と比の定理を証明することができる。
- ・補助線の引き方を変えるだけで、こんなにたくさんの証明の仕方があるんだね。

第12時 平行線と図形の面積

【●知識・技能】

- 台形の中にある2つの三角形の面積の比を考える活動を通して、三角形の面積の比を求めるためには、平行線と線分の比に着目し、底辺や高さをどこにするとよいかを判断するとよいことに気づき、三角形の面積の比を求めることができる。
- ◆平行線と線分の比に着目して、三角形の面積の比を求めることができる。
- ・底辺や高さの比を使えば面積の比が求められるんだね。相似比と面積比の間には、何か決まりはあるのかな。

第7時 三角形と比

【◎思考・判断・表現】

- 三角形の一边に平行な直線を引いたときにできる線分の比について調べることを通して、三角形と比の定理を見だし、証明することができる。
- ◆相似な三角形の性質を用いて、三角形と比の定理を演繹的に考察することができる。
- ・三角形と比の定理を使えば、これまで求めることができなかった線分の長さを求めることができるんだね。

第8時 三角形と比の定理の逆

【◎思考・判断・表現】

- 三角形と比の定理の逆を証明する活動を通して、図形の中の線分の組が平行かどうかを判断することができる。
- ◆三角形と比の定理の逆を証明し、図形の中の線分の組が平行かどうかを判断することができる。
- ・同位角や錯角が等しいことを使わなくても、線分の比を使って2直線が平行であることが証明できるんだね。

第9時 平行線と線分の比

【●知識・技能】

- 平行線と線分の比の定理が、三角形と比の定理を用いて証明できることを理解し、その定理を利用して線分の長さを求めることができる。
- ◆平行線と線分の比の定理を利用して、線分の長さを求めることができる。
- ・補助線を引いたり、直線を移動させたりして考えると、三角形と比の定理の考えを使うことができたよ。この定理を使うと簡単に三つ折りができるんだね。

第1節 相似な図形 第1時～第6時

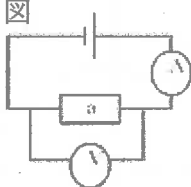
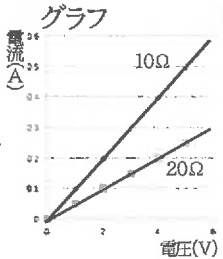
理科学習指導案(第1公開)

1 単元名 電気の世界

2 本時のねらい

2種類の抵抗器に電圧を加え、流れる電流の大きさを調べる実験を通して、電圧の大きさと流れる電流の大きさには比例の関係があることを見いだすことができる。

3 本時の展開(7/12)

	学習活動(生徒の反応、意見)	指導・援助(■研究内容 ○手立て)
つかむ	1 事象を見る。(2分) 手回し発電機に豆電球をつなぎ、回し方を変えると、豆電球の光り方が変わることから、電圧と電流にはどのような関係があるかを考える。 - 速く回すほど、電圧も電流も大きくなり、豆電球が明るくなる。 - 手回し発電機を速く回して、電圧が約2倍に大きくなると、豆電球の明るさが明るくなるから、電流の大きさも約2倍になりそう。	■視点Aに関わって ○手回し発電機が自転車の発電機などで使われていることから、生活の中での体験から、考えやすいように事象実験を行う。A-(1)
考える	2 課題を設定する。(2分) 抵抗器に加える電圧の大きさと、流れる電流の大きさにはどのような関係があるだろうか。 3 予想を立てる。(2分) - 抵抗器に加える電圧が2倍、3倍になれば、流れる電流の大きさも2倍、3倍になると思う。 - 電流と電圧は、比例の関係があると思う。 4 実験をする。(20分) (1)図のように、抵抗器 a(10Ω)の両端に加わる電圧と、流れる電流を同時に調べることのできる回路を作る。  (2)電圧を 1.0V、2.0V、3.0V、4.0V、5.0Vに変えて、それぞれの電流の大きさを調べる。 (3)抵抗器b(20Ω)に変えて同じ操作を行う。 (4)電圧と電流の関係をグラフに表す。  5 結果をもとに考察する。(10分) - 抵抗に加わる電圧の大きさが2倍、3倍になると、電流の大きさも2倍、3倍となる。 - グラフは原点を通る直線になる。比例の関係になっている。 - 抵抗器によって同じ電圧を加えても流れる電流の大きさが違う。 - グラフの傾きは違うが、どの抵抗器も比例のグラフになった。 6 オームの法則の説明を聞く。(2分) 電圧の大きさが2倍、3倍になると、電流の大きさも2倍、3倍となる。電流は電圧に比例することをオームの法則という。 7 授業の内容をまとめる。(2分) 抵抗器に加わる電圧と電流の大きさには、比例の関係がある。このことを「オームの法則」という。	■視点Bに関わって ○演示実験を確認し、自分たちが何を解決すればよいのか捉え、課題化を図る。具体物として、生徒が小学校や技術・家庭科で活用経験がある手回し発電機を用いる。B-(1) ○導入で演示実験を取り入れることで、課題解決に向かうための生徒の興味・関心を高める。B-(1) ○既習内容である電流の性質や電圧の性質の各実験の経験を活用することにより、電流と電圧の関係の規則性が見いだせることを伝える。B-(2)
深める	8 まとめの事象を見る。(10分) c(40Ω)の抵抗器を使って同様の実験を行うとどうなるか。 - グラフの傾きは違うが、比例の関係になる。 - グラフの傾きは、小さくなる。	■視点Cに関わって ○事前に電流の性質での学習状況を教師が把握しておき、回路の組み立て方や電流計の読み取り方等、つまづきそうなポイントを把握し、机間指導につなげる。C-(1) ○グループで考えるときに1人1台タブレットを開いてプログラムを必ず全員が結果を確認・処理することで、少しでも教え合いなどの協同的な学習が行われるようにする。C-(2) ○結果を入力する Excel シートを Microsoft Teams 上で事前に配付し、生徒がいつでも他班の結果を参照・確認することができるようにする。C-(3)
まとめる		【評価規準】 ◆思考・判断・表現◆ 実験の結果から、電圧の大きさが2倍、3倍になると電流の大きさも2倍、3倍となり、比例の関係があることを見いだすことができる。

1 単元名

運動とエネルギー

2 単元について

本単元は、運動の規則性やエネルギーの基礎について、身の回りの物体の運動の観察や実験を通して、見いだすことがねらいである。まず、速さについての定義をしてから、速さの変化と力のはたらきとの関係を見いだすことができるようにする。続いて力の合成・分解や慣性について実験を通して理解することができるようになる。また、エネルギーと仕事については、運動エネルギー、位置エネルギーという力学的エネルギーを扱い、その後エネルギーと仕事の関係を見いだすことができるようにし、運動と力、エネルギーと仕事の概念を段階的に形成していきたい。

本章「エネルギーと仕事」は、目で見ることができないエネルギーと仕事の概念を数字で表し、大きさを比較して効率を考えることをねらいとしている。また、エネルギー資源について考え、現代社会の課題を解決するための次の単元につながる学習をする。目で見ることができないものであるために、実験で測定した結果をもとに、エネルギーの大きさや仕事の効率について正しく求めることができるように指導していきたい。そのために、実験では視点や条件設定を明確にして、正しく結果を出すことができるように指導していきたい。

3 育成を目指す資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
- エネルギーに関する事物・現象についての観察、実験などを行い、身近な物理現象について理解すること - 科学技術の発展と人間生活との関わりについて認識を深めること - 科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けること	- エネルギーに関する事物・現象に関わり、それらの中に問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し表現する力 - 科学的に探究する活動を通して、規則性を見いだしたり課題解決したりする力	エネルギーに関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見ようとする態度

理科の見方・考え方

・自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点でとらえ、比較したり、関連付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。

本単元で重点的に働かせる見方・考え方

・物体の運動とエネルギーを日常生活や社会と関連付けながら理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。
 ・運動とエネルギーについて、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、力のつり合い、合成や分解、物体の運動、力学的エネルギーの規則性や関係性を見いだして表現すること。また、探究の過程を振り返ること。

4 研究主題に関わって

視点A 単元構想図の工夫

(1)単元における学習内容と将来や社会とのつながりの明確化

本単元で扱う運動やエネルギーは、身の回りで多く見られる現象のひとつである。運動では、自転車に乗っている時の速さであり、物体のもつエネルギーでは走っている自転車がぶつかったときの衝撃の大きさである。このように、具体的な現象の例を挙げながら、学習内容と結びつけて考えられるように指導していきたい。

(2)学びの連続性の明確化

本章では、エネルギーと仕事の関係性について学習する。物体がもつエネルギーの大きさは、目で見ることができないので、仕事の大きさで調べることになる。そのためには、エネルギーや仕事について理解していなくてはならない。単元構想図にあるように、エネルギーについて理解する時間や仕事とエネルギーをつなぐ時間は、本章の基礎的な学習になる。その学習が、他の授業につながっていることを明確にしながらい進めていきたい。

視点B 必然性のある課題化

(2)本時どのような力を付けるのか「何を考えたり深めたりするのか」生徒が分かる課題設定

前時からのつながりを確認し、本時で考えることを明確にした上で、課題を作る。前時に行っている実験ではあるが、課題の中に本時変更する条件を入れることで、見通しをもって活動できるようにする。

視点C 主体的な学びを生み出す指導・援助の在り方

(1)個のつまずきに応じた指導・援助の工夫

予想において、「斜面の傾きを変えると仕事も変化する」と考えた生徒は、実験の結果を見てなぜそうなるのか疑問に思うと考えられる。すると、考察では何を考えたらよいかわからなくなる可能性がある。そこで、実験をやり直してみたり、仲間と意見交流してみたりして、「高さを変えていないために位置エネルギーが変化していないこと」に気付くことができるようにする。実験をやり直している生徒には、高さに注目するように声をかける。意見を交流している生徒には、ポイントとなる発言(高さに注目した発言など)に注目するように促す。

5 本時のねらい

斜面で小球を落下させて木片に衝突させ、その動いた距離で仕事の大きさを調べて分析する活動を通して、斜面の傾きを変化させても高さや物体の質量が同じであれば、物体がされた仕事の大きさは変化しないことを見いだすことができる。

6 本時の展開(8/13)

つかむ

考える

深める

まとめる

学習活動(・生徒の反応、意見)

- 1 前時までの学習の流れを確認する。(2分)
 - ・小球の質量が大きい方が、物体がされた仕事が大きくなる。
 - ・高さが高い方が、物体がされた仕事が大きくなる。
- 2 本時の課題を設定する。(1分)

小球の質量や高さを同じにしたとき、斜面の傾きを変化させると、物体がされた仕事も変化するのだろうか。

- 3 予想を立てる。(5分)
 - ・斜面の傾きが変わると速さも変化するので、物体がされた仕事も変化すると思う。
 - ・斜面の傾きが変わっても、小球の高さは変わらないので、物体がされた仕事は変わらないと思う。
- 4 実験をする。(15分)
 - ① 小球を転がして、木片がどれだけ動くかを調べる。
 - ② 傾きを変えて、①のように調べる。(高さは変えない。)

- 5 結果をもとに考察する。(15分)

- ・傾きを変えても、木片の動く距離は変わらなかった。

傾き(°)	10	20	30	40
距離(cm)	1.7	1.8	1.7	1.7

- ・どの班の結果もほぼ同じだ。
- ・傾きが変わっても、木片の動く距離が変わらなかったことから、傾きの大きさは、物体がされた仕事の大きさとは関係しない。
- ・傾きが変わっても、高さが変わらないから、物体がされた仕事の大きさは変わらない。
- ・仕事の大きさは、物質の質量と高さに関係している。

- 6 まとめる。(5分)

小球の質量や高さを同じにしたとき、斜面の傾きを変化させても、物体がされた仕事は変化しない。物体がされた仕事は、物質の質量や高さによって決まる。

- 7 まとめの事象を見る。(8分)

傾きを変えたとき、小球の速さはどうなっているかを調べる。

- ・位置エネルギーが同じだから、運動エネルギーに変換されただけで力学的エネルギーの保存より、速さも変わらない。
- ・だから、傾きの大きさは物体がされた仕事に関係しない。

傾き(°)	10	20	30	40
速さ(cm/s)	2.80	2.81	2.80	2.79
距離(cm)	1.7	1.7	1.7	1.7

指導・援助(■研究内容 ○手立て)

■視点Bに関わって

- 前時の実験結果(小球の質量が大きくなったり高さが高くなったりすると、仕事が大きくなること。)を確認し、本時は斜面の傾きに注目して実験することを確認する。B-(2)

■視点Cに関わって

- 既習内容を振り返り、予想できるように促す。C-(1)
- 班や近くの仲間と相談しながらでも、自分の考えを出せるように指導する。C-(2)
- 調べたい条件(斜面の傾き)だけを変化させることを確認する。C-(1)
- 実験操作による躓きを無くすために、実験装置を実際に使いながら、実験方法を説明する。C-(1)
- 他の班の結果を、スクリーンに映し、どの班でも同じ結果が言えることを確認する。C-(3)
- 誤差があった場合、他の班の結果を確認することで気付くように指導する。C-(1)
- 他の仲間の意見を自由に聞き、自分の意見を深めることを価値付ける。C-(2)
- 仲間の意見から、自分の意見が変わった生徒には問い返し、理由を明らかにすることで、生徒の意見の深まりがわかるように指導する。C-(1)
- 実験の中で、斜面の傾きを変えているだけで高さを変えていないことに着目するように指導し、木片の移動する距離が変化しないのは高さが変わっていないからであることに気付くようにする。C-(1)
- 前時の内容にも触れてまとめることができるように指導する。C-(1)
- 自分の予想から考えが変化したことに触れてまとめた生徒を価値付ける。C-(1)

■視点Aに関わって

- 台車を走らせたときは、斜面の傾きと共に、高さも変わっていたことを確認する。A-(2)
- 力学的エネルギーの大きさが変わらないことに触れ、既習内容の確認につなげる。A-(2)

【評価規準】

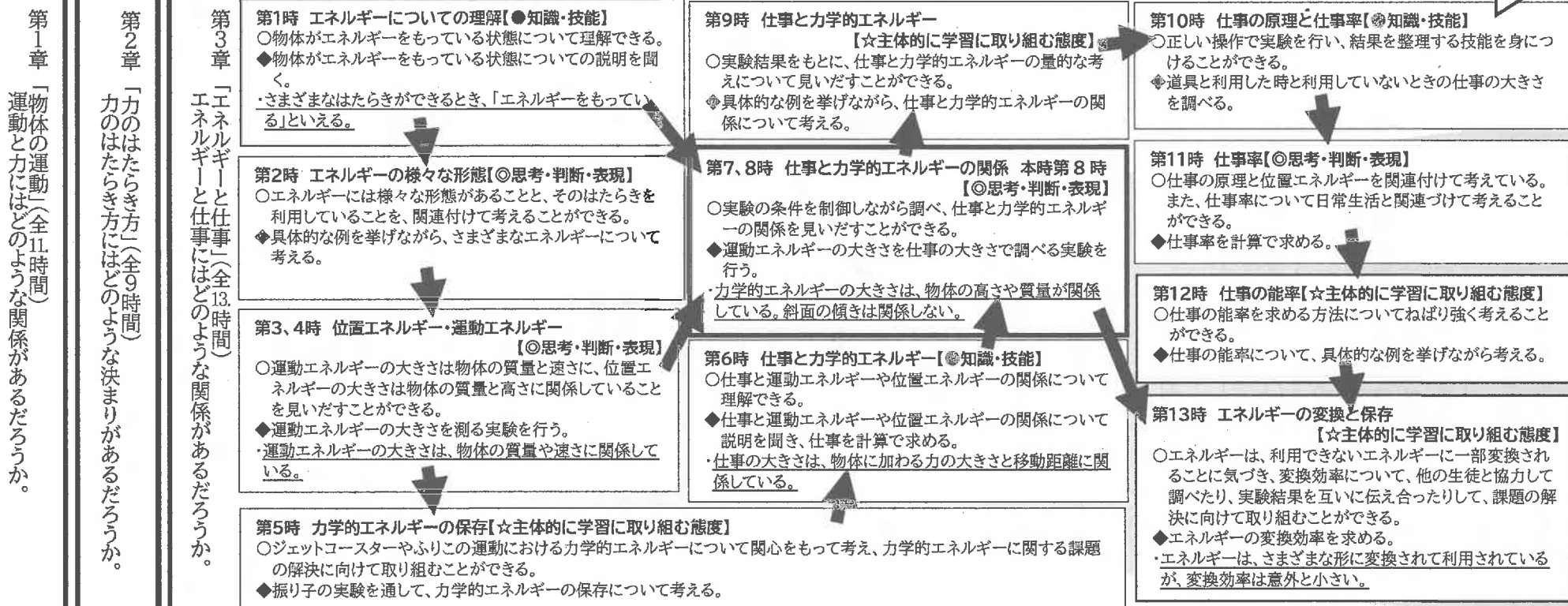
◆思考・判断・表現◆

物体がされた仕事は、高さと質量に関係していて、斜面の傾きには関係しないことを見いだすことができる。

第3学年 運動とエネルギー 単元構想図（第3章 全13時間）

【単元のねらい】 ・運動の規則性やエネルギーの基礎について、身の回りの物体の運動の観察や実験を通して見いだす。速さの変化と力のはたらきとの関係を見いだす。力の合成・分解や慣性について実験を通して理解する。エネルギーと仕事については、運動エネルギー、位置エネルギーという力学的エネルギーを扱い、その後エネルギーと仕事の関係を見いだす。	【単元での評価規準】 <知識・技能> ・力学的エネルギーを日常生活や社会と関連付けながら、仕事とエネルギー、力学的エネルギーの保存についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 <思考・判断・表現> ・力学的エネルギーについて、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、力学的エネルギーの規則性や関係性を見いだして表現しているとともに、探究の過程をふり返るなど、科学的に探究している。 <主体的に学習に取り組む態度> ・力学的エネルギーに関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	【将来や社会とのつながり】 ・交通事故では、走っている車の速度が速い場合や、車の重量が大きい場合に、事故の衝撃が大きくなる。 ・耐震工事によって、建物の柱に斜めの柱を加えることで、建物の強度が増す。 ・エネルギーは、いろいろな形に変換して利用している。
【単元開始時の生徒の意識】 ・物体に力が加われば、物体の速さは速くなる。その後、力がなくなっていくので速さは小さくなり、いずれ止まる。エネルギーとはどういうものかわからない。エネルギーが大きいと、他の物体に与える影響は大きくなる。		【単元終了後の生徒の意識】 ・物体に力が働き続けるかそうでないかで、物体の運動の様子が変化し続けるかが変わる。物体のもつエネルギーが大きいのは、物体の質量が大きい場合と物体の位置が高い場合である。

物体の運動やエネルギーには、どのような規則性や関係性があるか。



1 題材名 音楽の特徴やその背景を理解して、その魅力を味わおう

2 題材について

本題材は、「リズム」や「音色」に着目しながら音楽の構造や曲想を理解し、鑑賞や創作を通して音楽の基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることで、音楽のよさや美しさを味わうことをねらいとしている。

始めに鑑賞する「ボレロ」は、曲全体を通して繰り返し演奏されるリズムにのって、2つの旋律が交互に表れる。管弦楽の魔術師といわれたラヴェルならではのオーケストレーションにより、使用する楽器や組み合わせを工夫することで、最後に向かってドラマティックに曲が進行していく。楽器の組み合わせによる音色の変化、曲全体の強弱の変化に注目しながら曲の構成の特徴に気付くことができるようにし、音楽のよさや美しさを味わうことができるようにする。

次に鑑賞するポピュラー音楽の「ウィーウィルロックユー」は、単純なリズムが足踏みや手拍子で演奏されることで、曲に力強い統一感を与えている。様々なポピュラー音楽のリズムの特徴から音楽を捉え、音楽の背景にある文化についても考えることができるようにする。最後に、これまでに学習した音楽素材による雰囲気の違いや、リズムの重ね方の工夫を生かして、リズムアンサンブルを行う。

3 育成を目指す資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・曲想と音楽の構造や背景などとの関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な創作の技能を身に付けること	・曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができること	・主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養うこと
音楽科の見方・考え方		
・音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、捉えたことと、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けすること。		
本題材で重点的に働かせる見方・考え方		
・ボレロ、ポピュラー音楽、Let's Create!の「リズム」「音色」を知覚し、これらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠、生活や社会における音楽の意味や役割について考えること。		

4 研究主題に関わって

視点A 題材構想図の工夫

(1) 題材における学習内容と将来や社会とのつながりの明確化

本題材で最初に鑑賞する「ボレロ」はバレエのためにつくられた音楽であり、他の芸術との関わりを学ぶことができる教材である。次に鑑賞するポピュラー音楽は多くの音楽の総称だが、その土地や時代に合わせて生まれたものが多く、ストレートに感情を表すような音楽やアドリブで自由に演奏される音楽もある。本時「リズム」に着目して「ボレロ」を鑑賞することで、私たちの生活や文化に密着した「リズム」の多様性に気付かせ、題材を通して「リズム」に着目するという意識をもつことができるようにする。さらに、テレビ等で生徒にも馴染みがあるポピュラー音楽の背景に目を向けることは、音楽の捉え方を広げ、音楽文化や社会について考えることにつながる。

視点B 必然性のある課題化

(2) 本時「どのような力を付けるのか」「何を考えたり深めたりするのか」生徒が分かる課題設定

本時の導入では3分程度ボレロを鑑賞する。生徒は「同じリズムが続いている」「同じメロディを違う楽器で演奏している」等の発言をすると考えられる。曲全体は15分あるので、冒頭を聴いただけでは強弱の変化に気付くことは難しい。導入では「強弱」に着目することを伝えた上で、この曲のラストがどのようなになっているのか想像させることで課題化を図る。変化する「音楽を形づくっている要素」は「音色」と「強弱」であり、変化しない「音楽を形づくっている要素」は「旋律」と「リズム」である。これらの要素を板書で位置付け、本時を貫いて考えることができるようにする。

視点C 主体的な学びを生み出す指導・援助の在り方

(1) 個のつまずきに応じた指導・援助の工夫

本時では、ボレロに出てくる旋律を2種類の楽器で演奏した音源を用意し、生徒に聴かせることで、同じ旋律でも演奏する楽器や楽器の組み合わせによって曲の雰囲気が変わることを知覚・感受できるようにする。また、ボレロで演奏される楽器を教科書の図で確認したり、写真を掲示したりして、楽器の組み合わせによる音色の変化に気付くことができるようにする。

5 本時のねらい

ポレロの音色、リズム、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えることができる。〔音楽を形づくっている要素：音色・リズム・強弱・旋律〕

6 本時の展開(1/4)

	学習活動(・生徒の反応、意見)	指導・援助(■研究内容 ○手立て)
つかむ	1 教科書を開かずに冒頭の3分程度(EsCla.まで)をCDで鑑賞し、感想を交流する。(8分) ・スネアドラムの音がずっと続いていて、同じリズムの繰り返しだった。 ・旋律は2種類しかなくて、その2種類の旋律が繰り返されていた。 ・とても小さな音で始まった。 「ポレロ」を強弱に着目して鑑賞しよう。	■視点Bに関わって ・最初は音源だけで鑑賞することで、リズムや旋律は変わらず繰り返されるが、音色が変化していくことに気付くことができるようにする。B-(1) ・題材を通してリズムについて学ぶことを理解できるようにする。B-(2)
考える	2 小太鼓のリズムについて、一緒に手で打って確認する。また、小太鼓のリズムが冒頭部と最終部では何が同じで何が違うのか予測する。(10分) ・最初は弱い音だったけれど、曲が進むにつれて強い音になって、曲の規模が大きくなっていった。 3 フルート、トランペットの演奏で2つの旋律を聴き、音色による旋律の雰囲気の変化を知覚・感受する。(12分) ・旋律Aは長調、旋律Bは短調で、違う雰囲気の音楽となっている。 ・同じ旋律でも、楽器が違っていると雰囲気が違うんだな。	■視点Cに関わって ・リズムのみに着目できるように、実際にポレロのリズムを教師がスネアドラムで演奏する。その上で、全員で手で打ってリズムを確認し、次時に学習するバレエ、その後に学習するポピュラー音楽の鑑賞や創作とつなげて考えられるようにする。C-(1)
深める	4 教科書を参考にして楽器の組み合わせによる音色の変化に着目して、オーケストラの映像でポレロを鑑賞する。(15分) ・旋律を演奏する楽器は、最初は小さい音の楽器、柔らかい音の楽器で、最初のスネアドラムも聴こえないような弱い音だった。 ・最後の方が固い音の楽器、大きな音の楽器が多いように感じた。 ・旋律は2種類だけれど、演奏する楽器や組み合わせが変化していて、だんだん盛り上がっている。 ・曲の最初よりも、だんだん強くなって、規模が大きくなっている。気付いたら強くなっていた感じだな。 ・最初は弱い音だったけれど、曲が進むにつれて強い音になって、曲の規模が大きくなっていった。 5 楽器の組み合わせを確認しながら鑑賞し、今日の学びを振り返る。(5分)	・オーケストラで使用される楽器について、既習内容を確認し、6月に学習した「音楽の特徴や背景を理解して鑑賞しよう(ブルタバの鑑賞)」での音色の学習を生かすことができるようにする。C-(1) ・どのような楽器の組み合わせで演奏されるのか理解できるように、映像資料を活用する。C-(3)
まとめる	・同じリズムがずっと続いていて、その上で2種類の旋律が何度も繰り返されて曲ができていたことが分かった。 ・同じ旋律でも、演奏する楽器によって、柔らかい音や力強い感じなど、雰囲気が変わっていたし、楽器ごとの音色の特徴を生かして、組み合わせを工夫して作曲していることが分かった。 ・楽器の組み合わせによって、少しずつ曲が盛り上がっていく様子がとてもおもしろいと思った。	◆思考・判断・表現◆ ポレロの音色、リズム、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えることができる。

第3学年 音楽の特徴やその背景を理解して、その魅力を味わおう 題材構想図(全4時間)

【題材のねらい】 ・曲想と音楽の構造との関わり、曲の構成の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解する。 ・曲想と音楽の構造との関わりについて理解し、創意工夫を生かして音楽をつくるために、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付ける。	【題材での評価規準】 <知識・技能> ・音楽の特徴を捉え、その背景となる文化や歴史との関わりについて理解している。 <思考・判断・表現> ・音色・リズム・構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現を工夫している。	【将来や社会とのつながり】 ・ポピュラー音楽にはいろいろなジャンルがあり、ロックはテンポの速い音楽だと感じる。 ・喫茶店などでジャズが流れていると気分よく過ごすことができる。
【題材開始時の生徒の意識】 ・音楽を形作っている要素については理解できるが、曲との結び付けや表し方が分からない。	<主体的に学習に取り組む態度> ・曲やその演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	【題材終了後の生徒の意識】 ・音楽は、他の芸術と関わりがあるものもあるということが分かった。 ・それぞれの時代や社会において、多種多様な音楽があることが分かった。 ・楽器が増えたり楽器の組み合わせが変化したりすることで、曲想の変化を感じ取れた。

音楽の特徴やその背景を理解して、その魅力を味わおう。

第1時「ボレロ」【◎思考・判断・表現】

○ボレロの音色、リズム、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えることができる。

◆ボレロのリズムの特徴や、2つの旋律の特徴を感じ取り交流する。

第2時「ボレロ」【●知識・技能】

○ボレロの曲やその演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。

◆第1時で学習した曲想と音楽の構造との関わりや、音楽とバレエとの関わりについて、自分の考える「ボレロ」の紹介文をまとめる。

第3時 ポピュラー音楽【☆主体的に学習に取り組む態度】

○ロック・ジャズ・ボサノヴァを聴き、音楽の特徴を捉え、その背景となる文化や歴史との関わりについて理解することができる。

◆気に入ったジャンルの音楽の特徴やその背景となる文化について調べたり、生活や社会でどのような意味や役割をもっているのか考えたりして、交流する。

第4時 リズムアンサンブル【◎思考・判断・表現】

○音色・リズム・構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現を工夫している。

◆つくったリズムを使って、2人でリズムアンサンブルの構成を考え演奏・交流する。

1 題材名

自分に贈る卒業記念品

2 題材について

本題材では、「自分に贈る卒業記念品」として、機能美や構成美に着目した時計の枠飾りの制作を行う。自分自身の中学校生活3年間を見つめ直すことで、大切な思い出を振り返り、自ら主題を生み出し、作品として昇華させていく。

生徒は、これまでの美術科の学習において、自己を見つめる活動や、石塑粘土を用いた作品制作に取り組んできている。例えば、第3学年前期に取り扱った「空想は現実を超えて」の学習では、自分自身をモチーフに置き換え、デペイズマンの技法を用いて、「今の自分」を表す絵画作品に取り組んだ。また、第2学年前期には、箱の中に石塑粘土を用いて自分の気持ちを表現する抽象作品の制作にも取り組んできた。このように、これまで培ってきた力を発揮し、自身の思い出と向き合い、時計の枠飾りを作る活動を通して、工芸作品としての構成美や機能美に気付くことに加え、自己理解を深めたり、自身の表現の幅を広げたりすることができるようにしたい。

3 本単元で育みたい資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・中学校生活の思い出を表現するだけでなく、時計としての機能を損なうことなく制作していくことを理解すること ・材料や用具の特質を理解して、見通しをもって、より主題を表現するのに適切な方法を工夫できる技能	・明確な主題を生み出し、使いやすさと美しさとの調和を総合的に考え、生活を彩る時計になるように表現の構想を練っている ・仲間の作品から目的と機能が調和した、洗練された美しさを感じ取り、表現の意図や作者の工夫について考えるなかで、見方や感じ方を深めている	・使いやすさと美しさとの調和を図った構想を練るなかで、制作意図に応じて創意工夫し、見通しをもって表現の学習活動に取り組もうとしている ・鑑賞の活動のなかで、仲間の作品から、洗練された美しさを感じ取り、表現の意図や作者の工夫について考える態度を養うこと
美術科の見方・考え方		
・よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力である感性や、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと。		
本単元で重点的に働かせる見方・考え方		
・表したい思い出を、モチーフの形や大きさ、配置の効果を生かして、構成美と機能美を兼ね備えた時計の枠飾りとして美しく表現する見方・考え方。		

4 研究主題に関わって

視点A 題材構想図の工夫

(2) 学びの連続性の明確化

前題材「空想は現実を超えて」の学習では「今の自分」をテーマにどんな自分を表現するのか、主題を設定し、作品制作に取り組んだ。本題材では「卒業する自分へのプレゼント」をテーマに、中学校生活の思い出から主題を設定し、作品を見るたびに現在の思い出に立ち返る事ができるような作品を目指す。主題設定を前の題材と関連させることで、より深く自己を分析していくことをねらう。また、構成美と機能美を兼ね備えた作品の完成に向けて、計画的に表現の追及ができるように、パーツづくり、組み立て、彩色をそれぞれ3時間構成で行う。この3時間は試行錯誤、追求、仕上げる3つのステップで作品制作に取り組む。見通しをもち、本時の目標を明確に思い描きながら制作ができるような授業を展開していく。

視点B 必然性のある課題化

本時は、前時までの平面上のアイデアスケッチをもとに、立体的な作品を制作していく活動の最初の時間である。したがって、パーツの形や大きさが作品に与える印象の違いや、自分の主題に適した表現方法や機能美と構成美を兼ね備えた作品とは、どういったものなのかということに気付くことができるようにしていきたい。

(1) 生徒が学ぶ意欲をもつことができる魅力ある導入

表現方法の追及を行うために、示範作品の比較を行う。平面でのアイデアスケッチから、実際に石塑粘土を用いて立体的に表現した作品を複数提示することで、同じアイデアスケッチでも様々な形や大きさと表現できることに気付くとともに、形や大きさを変えることによって、作品の印象が変わることを押さえたい。そのために、教師のアイデアスケッチと、アイデアスケッチをもとにして制作した作品の表現方法の広がりを書き構造的に示し、制作への意欲につなげていきたい。

(2) 本時「どのような力を付けるのか」「何を考えたり深めたりするのか」生徒が分かる課題設定

立体で表現することで、平面で表現するよりも多様な表現を行うことができることを押さえ、パーツの形や大きさが主題に適しているのか、機能美や構成美を兼ね備えた作品となっているのかを生徒自身が判断し、試行錯誤しながら制作していくことができるようにしていきたい。

視点C 主体的な学びを生み出す指導・援助の在り方

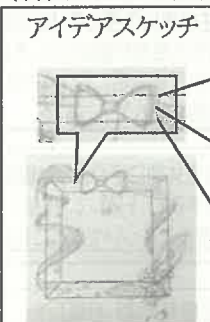
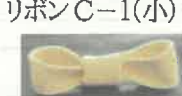
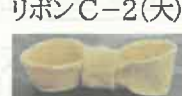
(3) 効果的な ICT の活用

授業の終末では、タブレットを用いて自分の作品制作過程を残し、本時の活動を振り返る時間を設ける。文章だけではなく視覚資料として制作過程を残すことで、どんな主で制作をしたのか、どこを調整したいのかなど、次回の学習へつなげていくようにする。また、制作する際の技法をタブレット上で共有することによって、生徒が必要とする情報をすぐに得られるようにしていく。

5 本時のねらい

アイデアスケッチをもとに、実際に石塑粘土で装飾の部品を制作することを通して、立体表現における表現方法の広がりや使いやすさと美しさを調和させることができることに気づき、自身の表現を追求することができる。

6 本時の展開 (3/13)

	学習活動(生徒の反応、意見)	指導・援助(■研究内容 ○手立て)
つかむ	1 前時までの学習を確認し、本時の見通しをもつ。(5分) ・前の時間に描いたアイデアスケッチをもとにして、立体的な作品にしていこう。大きさや形にこだわって制作しよう。 2 本時の課題を確認する。(3分) アイデアスケッチをもとにして、使う場所や、時計を使っている状況をイメージしながら、粘土での表現を追求しよう。	■視点Bに関わって ○本時の制作のイメージがもてるように、アイデアスケッチと、アイデアスケッチをもとにして制作したパーツを示し、立体作品における表現の広がりを提示する。B-(1) アイデアスケッチ  リボンA  リボンB  リボンC  リボンC-1(小)  リボンC-2(大) 
考える	3 アイデアスケッチをもとに、パーツを制作する。(20分) ・実際に石塑粘土に触れながら、形や大きさ、数、制作方法(ねじる、つける、つまみ出すなど)や、使用目的に着目し、立体作品として表現する方法を模索していく。 例 パーツの形を考える A  B  ・花びらが開いているバラのほうが、「希望があふれる」感じがするけれど、花びらを薄くしすぎると壊れやすくなってしまうな。 ・花びらが少し閉じているバラのほうが、「不安がある」感じがするな。ガクの形を整えて、枠に貼り付けやすくしよう。 例 パーツの大きさを考える A  B 	○生徒が、「やってみたい」「できそう」という意識がもてるようにするために、導入の際に、制作するときの思考の過程を提示する。B-(1) ○本時の活動である「粘土での立体表現を追求する」とはどういった活動なのかのイメージがもてるようにするために、示範作品を比較する活動を設定する。 ■視点Cに関わって ○より具体的なイメージをもって制作できるようにするために、タブレットを用いて、モチーフの写真などを検索したり、共有してある技法を視聴したりするように声をかける。C-(1) ○手が止まっている生徒に対しては、アイデアスケッチをもとにして、生徒の思いを聞き、技法の動画をもとにしながら活動の指針を一緒に模索することで、制作のきっかけを生み出すことができるようにする。C-(1) ○木枠にパーツを乗せた作品の写真を撮り、制作の過程を残すことで、次の時間の活動につなげられるようにする。C-(3)
深める	4 木枠にパーツを並べて置き、完成の形をイメージしながら、大きさ・形・(数)が主題や使用する場所や状況に適しているのかを再検討する。(10分) ・作ったバラとリボンがどちらも大きくて木枠がごちゃごちゃしてしまった。リボンの結び目をもう少し小さくして、バランスをとろう。	
まとめる	5 タブレットで写真を撮影し、「本時できたこと」「やってみて気付いたこと」「次回取り組みたいこと」の3点を振り返る。(10分) 主題を表す主なモチーフとして、バラを作ることができた。バラは、花びらを1枚1枚貼り付けるよりも、粘土を巻きつけた後に花びらをヘラで広げると、より花びらが広がっているような感じが出せた。植物のモチーフは家の玄関にも適していると思うため、次回は同じ技法でバラをあと2つ作りたい。バラの葉っぱも作ることで、植物のモチーフを増やしたい。	■視点Aに関わって ○制作内容を次の時間につなげることができるようにするために、タブレットで写真を撮影し、振り返りを記入するように伝える。 【評価規準】 ◆知識・技能◆ 平面作品であるアイデアスケッチを立体にして表現する際の表現の広がりに気づき、使用目的や時計の機能性を考えるなかで、自身の作品にはどのような形や大きさが適しているのかを、実際に粘土に触れながら試行錯誤して制作を行うことができる。

第3学年 自分に贈る卒業記念品 題材構想図(全13時間)

【題材のねらい】 ・中学校で過ごした3年間を振り返り、中学校生活の大切な思い出を飾ることができるような、時計の装飾を制作することができる。	【題材での評価規準】 <知識・技能> ・既習の知識や技能を生かし、自身の主題をもとに石塑粘土を用いて、構成美と機能美を兼ね備えた時計の装飾を創造的に制作することができる。 <思考・判断・表現> ・卒業記念品として適した主題を設定し、試行錯誤しながら主題を表現するとともに、使用目的や機能美を兼ね備えた表現を追求することができる。 <主体的に学習に取り組む態度> ・目的と機能が調和した、洗練された美しさを感じ取り、自らの中学校生活における成長などを感じながら意欲的な制作活動を行おうとしている。	【将来や社会とのつながり】 ・安易に形を変えることや、着色方法を選択することができることに加え、衝撃に強い素材である石塑粘土を用いるため、表現の自由度が高まり、自己表現の幅を広げることができる。また、中学校生活を振り返るなかで主題を設定していくため、作品を見るたびに思い出を振り返ることができるような作品を製作していく。
【題材開始時の生徒の意識】 ・どんな思いを込めるのか、どんな作品を制作していくのか、見通しがすぐにもてる生徒と、そうではない生徒が混在する。		【題材終了後の生徒の意識】 ・中学校生活を象徴するような作品を制作することができた。時計を見るたびに頑張ってきた自分を思い出すことができそう。また、玄関に飾ることを想定して作品制作を行うことができたため、実際に飾ってみると、雰囲気にとってもあっている、これからも使っていきたいと思う。

大切な思い出を飾り、見るたびに思い出を振り返ることができるような時計の装飾を制作しよう。

第1時 鑑賞・主題決め 【☆主体的に学習に取り組む態度】

- 教科書作品や示範作品を鑑賞することを通して、作品に込められた願いに気付き、主題を設定したり、今後の作品制作につなげたりすることができる。
- ・中学生活で打ち込んできた吹奏楽部について作品にしたい。玄関に飾れるようなデザインにしよう。 ◆鑑賞、主題決め。

第2時 アイデアスケッチ 【◎思考・判断・表現】

- 時計に込める願いに基づき、使用目的や機能性に着目し、モチーフや表現方法を練っていくことを通して全体の構成を決めることができる。
- ・吹奏楽部で頑張ってきたイメージを大輪のヒマワリとしてデザインしよう。 ◆アイデアスケッチを描く。

第3、4、5時 パーツづくり

- アイデアスケッチをもとにして、石塑粘土で作品を立体的に表す活動を通して、構成美や機能美を兼ね備え、なおかつ自身の主題をより効果的に表す表現方法に気付き、作品のパーツを制作することができる。
- ◆アイデアスケッチをもとにして、大きさや形にこだわり、パーツを制作する。

第3時 試行錯誤 【◎知識・技能】

- アイデアスケッチをもとに、実際に石塑粘土で装飾の部品を制作することを通して、立体表現における表現方法の広がりや使いやすさと美しさを調和させることができることに気付き、自身の表現を追求することができる。
- ・同じモチーフでも立体での表現方法はいろいろあるんだな。自分の主題や使用目的にあった表現方法はなんだろうか。
- ◆平面作品であるアイデアスケッチを立体にして表現するには、どのような形や大きさが適しているのかを試行錯誤しながら制作を行う。

第4、5時 追求・仕上げ 【◎思考・判断・表現】

- 作ったパーツの形や大きさを見直す活動を通して、時計としての機能を損なわず、自身の主題をより効果的に表すことができるような形や大きさ、パーツの数に気付き、作品制作をすることができる。
- ・前は平らなはっぱを作ったが、ひねって作ることで作品に立体感が出る。やる気や活気を表現するためにはひねって作ったほうがよさそう。
- ◆大きさや形、パーツの数にこだわり、全体の構成を意識しながら制作する。

第6、7、8時 組み立て 【◎知識・技能 / ◎思考・判断・表現】

- バランスや配置を意識して、制作したパーツを時計の枠に接着することを通して、主題を表現するための全体的な構成に気付き、機能美や構成美を兼ね備えた時計の枠を完成させることができる。
- ◆パーツを時計の枠に接着する。

第6時 試行錯誤 【◎知識・技能】

- アイデアスケッチや、前時までの思いに基づいてパーツを枠に接着することを通して、構成美や機能美、主題をより効果的に表現するための構成に気付くことができる。
- ・下にはみ出しすぎると、机の上に置きにくいから、下にははみ出さないように接着する必要があるな。
- ◆バランスや角度にこだわり、全体の構成を意識しながら接着する。

第7、8時 追求・仕上げ 【◎思考・判断・表現】

- 構成美や機能美に着目してパーツを枠に接着していくことを通して、自身の思いを美しく表現する作品を完成させることができる。
- ・下にはみ出すことはできないが、その分、作品上部にパーツを集めると思いがはじけるような感じをさらに出すことができるな。
- ◆調和のとれた全体の構成の美しさを意識しながら制作する。

第9、10、11時 彩色 【◎知識・技能】

- 様々な材料から、作品に適した彩色方法を選択し、丁寧に着色することができる。・強い意志を表現したいから、金属塗料で着色をしよう。
- ◆時計の枠飾りに着色を行う。

第12時 時計の組み立て 【☆主体的に学習に取り組む態度】

- 時計の枠飾り、文字盤等を組み立てることを通して、作品が完成したことに対する喜びや達成感を感じることができる。
- ・ヒマワリの形を整えるのはとても難しかったけれど、自分に贈る卒業記念品として作品を作り上げることができて嬉しい。
- ◆時計を完成させる。

第13時 作品鑑賞会 【☆主体的に学習に取り組む態度】

- 自分の作品について振り返ったり、仲間の作品について考察したりすることを通して、表現方法の違いや、主題に対するアプローチの仕方、作品の機能美や構成美などに気付きながら、作品を鑑賞することができる。
- ・〇〇さんは、(色や形、大きさ、全体の構成などに基づいて)制作していた。これは△△(主題や表したいこと)を表現しているのではないかと思った。(構成美や機能美について印象など)があると感じた。
- ◆作品鑑賞会を行う。

1 単元名

G ダンス「創作ダンス」

2 単元について

ダンスは、イメージを捉えた表現や踊りを通じた交流を通して仲間とのコミュニケーションを豊かにすることを重視する運動で、仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージを捉えて自己を表現したりすることを楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。第2学年では、感じを込めて踊ったりみんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの特性や由来、表現の仕方などを理解するとともに、イメージを捉えた表現や踊りを通じた交流ができるようにすることを目標としている。

昨年度、現代的なリズムのダンスの授業を経験し、リズムに乗って全身で踊ることや、ダンス自体の楽しさ、仲間と交流する楽しさを味わうことができていた。第2学年となり、少しずつ自分の内側にあるものの表現ができなくなっている今、創作ダンスを通して、自分が感じているものを表現したり、仲間の表現から込められていることを感じ取ったりして、自分たちのイメージに合うものを表現できるようにしていきたい。

3 本単元で育みたい資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
- 感じを込めて踊ったりみんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの特性や由来、表現の仕方、その運動に関連して高まる体力などを理解する力を養う - 多様なテーマから表したいイメージを捉え、動きに変化を付けて即興的に表現することや、変化のあるひとまとまりの表現ができるようにすること	表現などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること	ダンスに積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする、交流などの話合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を認めようとするなど、健康・安全に気を配ること

保健体育科の見方・考え方

【体育分野】

生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する観点を踏まえ、運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連付けすること。

【保健分野】

疾病や傷害を防止するとともに、生活の質や生きがいを重視した健康に関する観点を踏まえ、「個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けすること。

本単元で重点的に働かせる見方・考え方

運動やスポーツの価値や特性に着目して、ダンス自体の楽しさや喜びを感じることができること。

4 研究主題に関わって

視点A 単元構想図の工夫

(2) 学びの連続性の明確化

単元を通して、「自分のイメージに合わせた表現をしよう。」という課題を追求する中で、テーマや練習方法など、自分たちで選んで活動していく場を設定することで、主体的に取り組むことができるようにする。また、単元を通して特定のグループで活動するのではなく、テーマに応じてグループを自分たちで選択していくことで、より自分たちのテーマに合った表現をしやすいように考えていく。人数も制限を設けないようにするが、作品を発表する関係上、影響のない人数にする。

視点B 必然性のある課題化

本時は、表現を深める授業であるため、オリエンテーションの時に確認した、ダンスの3要素(時間、空間、力)についてもう一度押さえ、表現の幅を広げて考えることができるようにする。

(1) 生徒が学ぶ意欲をもつことができる魅力ある導入の工夫

前時までに考えてきた「日常」「自然」「感情」の映像をそれぞれ流し、この表現をさらによくするために何が必要かを考えさせる。その場を位置付け課題化を図っていくことで、生徒の意欲を高める導入になっていくと考える。

(2) 本時「どのような力を付けるのか」「何を考えたり深めたりするのか」生徒が分かる課題設定

オリエンテーションの時に確認した、ダンスの3要素(時間、空間、力)を視点とし、自分たちの表現が、さらにテーマを深く表現できるように、学習を進めていく。タブレット端末を使って、映像を確認しながら自分たちの表現を深めていけるようにしたい。

視点C 主体的な学びを生み出す指導・援助の在り方

(2) 意図的な学習形態の工夫

単元の特性上、第1時から最後までグループを固定して学習を進めていくわけではなく、テーマや題材によってグループをつくって活動をしていく。本時は、深めていく授業であるため、3時間を通して同じグループで活動していくことになる。しかし、グループを中心に活動するが、必要に応じて一人で行動したり、ペアグループと教え合いをしたりするなど、学習形態を自分たちで選んで活動することができるようにする。

5 本時のねらい

自分たちのイメージに合った表現を、ペアやグループの中で自分たちの動きを見直す活動を通して、表現の課題を発見し、自己や仲間の考えたことを伝えることができる。

6 本時の展開(7/10)

	学習活動(・生徒の反応、意見)	指導・援助(■研究内容 ○手立て)
つかむ	1 前時までの学習の流れを確認する。(2分) ・考え始めた自分たちの表現を、もう少し深めていくにはどうしていけばよいだろう。 ・オノマトペを具体的にイメージにしてみたけど、作品にするにはまだまだだからもっと考えていきたい。	■視点Bに関わって ○前時までに考えてきた「日常」「自然」「感情」の映像をそれぞれ流し、この表現をさらに深めるために何が必要かを考えさせる場を位置付け課題化を図る。B-(2) ○オリエンテーションの時に確認した、ダンスの3要素についてもう一度押さえ、表現の幅を広げて考えることができるようにする。B-(2)
	2 本時の課題を確認する。(3分) 練習方法を工夫して、自分たちのイメージに合うように表現を試し、グループの仲間に伝えよう。	
考える	・3要素(時間、空間、力)の視点で考えたり、ペアグループで教え合いをしたりすればさらによくなっていくのかもしれない。 ・前に創った短い作品から、イメージを膨らませて作品にしていこう。	■視点Cに関わって ○グループを中心に活動するが、必要に応じて1人で行動したり、ペアグループと教え合いをしたりするなど、学習形態を自分たちで選んで活動する。C-(2) ペアグループは、選んだテーマの中から一番近いと思われるテーマ同士でペアを組む。 ①日常(スポーツ、学校、働く等) ②自然(火、風、水等) ③感情(喜怒哀楽、衝動等) ○それぞれのグループを回りながら、3要素の視点やはじめ-なか-おわりの構成の視点、音楽からイメージを膨らませることを伝える。C-(2) ○動きが思いつかないグループには、オノマトペをたくさん出し、オノマトペからたくさん動きを出してみ、それを組み合わせるなどして、動きを創るようにアドバイスをする。C-(1) ○構成でつまづいているグループには、どこを一番主張したいのか、見せたいのかを考え、そこを目立たせるために前後をどうするかを考えるように声かけをする。C-(1) ○動きがある程度できているグループには、3要素の視点からどこを意識するとさらに自分たちのイメージに合うかを考えるように促す。C-(1)
	3 イメージに合った表現を深める。(15分) グループで練習を行っていくが、タブレットで映像を撮影したり、動きを検索したり、とにかく踊ってみたりと、グループ内で学習形態を考えて練習する。 ・音楽からイメージを膨らませて考えるのもよいかもしれない。 ・はじめ-なか-おわりと展開を考えて表現をしていくと、それぞれ違った表現になって自分たちのイメージに合うかもしれない。	
深める	4 ペアグループで交流(7分) この時の映像はタブレットで撮影しておく。交流の視点については、前時までに示しておく。 ・空間を広く使うとダイナミックになるな。自分たちのグループでも真似してみよう。 ・動く人と、止まる人とを分けるとより強調した表現になるとアドバイスをもらったから、練習してみよう。	■視点Aに関わって ○単元を通して、テーマや練習方法など、自分たちで選んで活動していく場を設定することで、主体的に取り組むことができるようにする。また、単元を通して特定のグループで活動するのではなく、テーマに応じてグループを自分たちで選択していくことで、より自分たちのテーマに合った表現をしやすいように考えていく。人数も制限を設けないようにするが、作品を発表する関係上、影響のない人数にする。A-(2)
	5 さらに表現を追究する。(13分) ・一人一人の表現を、空間を意識して特に上下に大きくやってみたら、映像で見てもわかりやすい表現になってきたな。 ・ソコを入れるという表現、やってみたらやっぱりうちのグループの表現に合っていた。でも、周りの人がどうしているかで見え方が変わってくるから、止まるか動くか、統一してできるようにするともっとよくなるかもしれないな。	
まとめる	6 グループで本時の学習を振り返る。(5分) ・もっと細かいところ、手や足の指先、腕の角度や足の出し方一つで表現が変わるから、そういう細かいところまでこだわって表現していく必要があるな。 ・映像を見ると想像していたより小さく踊っていたから、もっと大きな表現をしたい。	【評価規準】 ◆思考・判断・表現◆ 練習方法を工夫し、自分たちのイメージに合うように試行錯誤したことを伝え合っている。
	7 本時の授業の振り返り(5分) 前回と今回で表現を深めてきたけど、次回が終わったらいいよ発表会になる。今回の練習の中でテーマグループからもらったアドバイスや、映像を観て気付いたことを、次回の1時間で仕上げて、自分たちのイメージが表現できるようにがんばりたい。	

第2学年 G ダンス 創作ダンス 単元構想図(全10時間)

【単元のねらい】 自分の体全体を使ったり、集団の動きに差を付けたりすることで、変化を際立たせてダイナミックに自分たちにあったテーマを、日常生活、自然現象、人間の感情の中から選んで表現することができる。	【単元での評価規準】 <知識・技能> - 仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージを捉えて自己を表現したりすることができる。 - ダンスの楽しさや喜びを味わうことができる。 - 多様なテーマから表したいイメージを捉え、動きに変化を付けて即興的に表現することや、変化のあるひとまとまりの表現をすることができる。 <思考・判断・表現> - 表現などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 <主体的に学習に取り組む態度> - ダンスに積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする - こと、交流などの話合いに参加しようとする - こと、一人一人の違いに応じた表現や役割を認めようとする - こと、健康・安全に気を配ろうとしている。	【将来や社会とのつながり】 - 課題に対して自分の頭で考え、思った通りに自分の身体を動かす力を付けることで、問題解決能力が育まれる。 - 健康な体の基礎となる身体能力を身に付けることで、生涯にわたって運動に親しむ土台を作ることができる。 - グループやペアの仲間にアドバイスを送ったり、よりよくなるよう一緒に考えたりすることで、仲間と協力して活動する力が身に付く。
【単元開始時の生徒の意識】 1年生の時は現代的なリズムのダンスで「新時代」を踊って、仲間と一生懸命踊ることができたけど、自分たちで創る「創作ダンス」はリズムダンスのように決まった踊りもないし、自分たちで考えて表現をしていかなければいけないから、思い切って表現をすることができるかどうか不安だな。一生懸命やっていきたいけど、不安もあるな。		【単元終了後の生徒の意識】 この創作ダンスの授業を通して、自分の思っていることや、感情などを動きで表現することができるようになった。指先までこだわって動きをつくったり、擬音語や擬態語などのオノマトペを動きにしたりして、仲間と協力しながらダンスを創ることができた。不安からスタートしたけど、自分が感じていることを仲間と一緒にダンスを通して表現できてよかったな。この後の単元は、陸上競技の長距離走になるから、自分の感情や思いと向き合ったり、仲間と協力したりして、最後まで長距離走の学習にも粘り強く取り組んでいきたい。

自分のイメージに合わせた表現をしよう。

第1時 オリエンテーション

【☆主体的に学習に取り組む態度】

- 単元の目指す姿を理解し、積極的に学習に向かうことができる。
- ◆単元や時間、空間、力の3要素についての説明、創作ダンスの映像を観る。
- ・昨年のリズムダンスとは少し違うけど、自分らしく表現したいな。

第2時 構成を考える

【●知識・技能】

- 構成を意識して、イメージを表現することができる。
- ◆オノマトペを動きで表現
- 構成：はじめーなかーおわり
- ・ダンスの構成が分かった。テーマに合わせて表現したいな。

第3時 「自然」というテーマでダンスを創る 【◎知識・技能】

- 「自然」を具体的にイメージしてダンスで表現することができる。
- ◆「自然」のイメージをオノマトペで表現、はじめーなかーおわりを意識した短い作品を創る。
- ・自然にもたくさん表現の仕方があるのだな。もっと違うテーマで表現をしていきたいな。

第4時 「日常」というテーマでダンスを創る 【◎知識・技能】

- 「日常」を具体的にイメージしてダンスで表現することができる。
- ◆「日常」のイメージをオノマトペで表現、はじめーなかーおわりを意識した短い作品を創る。
- ・日常の中の動きを工夫するだけでダンスになるのだな。いろんな動きをダンスにしていけるかもしれないな。

第5時 「感情」というテーマでダンスを創る 【◎知識・技能】

- 「感情」を具体的にイメージしてダンスで表現することができる。
- ◆「感情」のイメージをオノマトペで表現、はじめーなかーおわりを意識した短い作品を創る。
- ・感情という抽象的なものもダンスにできるのだな。ここまでやってきたことを生かし、次から作品を創り込んでいきたいな。

第10時 振り返り 【◎思考・判断・表現】

- 目指す姿が達成できたか振り返ることができる。
- ◆発表会の映像や記録をもとに学習を振り返る。
- ・自分のイメージをダンスで表現することができた。次の単元でも自分の考えを表していきたい。

第9時 発表会 【☆主体的に学習に取り組む態度】

- 変化を際立たせてダイナミックに自分らしくイメージを表現することができる。
- ◆発表会、仲間の発表を観て盛り上げる。
- ・自分のイメージを自信をもって表現するぞ。

第6、7、8時 仕上げる 本時第7時

【◎思考・判断・表現】

- 発表会に向けて、自分たちの表現をさらに磨くことができる。
- ◆グループをテーマに合わせて自分たちで選択、同じテーマのペアグループで教え合い、学習形態を選んで学習に向かう、選んだテーマの作品を創る。
- ・仲間と協力して自分たちらしく創り込んでいこう。

1 題材名 教材名

「C 消費生活・環境」マネーマネジメントに挑戦しよう

2 題材について

消費生活の見方・考え方を働かせ、自分の生活を想起し、物資・サービスの選択・購入や消費行動についても問題を見いだし課題を設定し、金銭管理と購入にかかわる知識及び技能を身に付けるとともに、課題を解決する力や自立した消費行動を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付けていくことをねらいとしている。

私たちは誰もが消費者であり、物資・サービスを購入して生活をしている。今は家族の誰かにお金を支払ってもらって生活をしている中学生も、数年後には自分でほとんどの物資・サービスを自分で支払って生活をするようになる。生徒はお小遣いやお年玉の範囲であれば商品購入の経験はあるが、ほとんどは少額の物資である。そのため、本題材では月単位での収入をもとにした生活の仕方やサービスにも代金を支払っていること、代金の支払い方が多様化していること、また、18歳から成人年齢になったことにより購入には責任が伴うことを理解することができるようにすることでより自分が納得のいく買い物ができるような生徒の育成を目指したい。

3 本題材で育みたい資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・金銭の管理と購入についての基礎的な理解と技能 ・消費生活の権利と責任についての基礎的な理解	・家族・家庭や地域における生活の中から消費生活・環境について問題を見だし、課題をもって考え、解決する力	・身近な消費生活と環境について工夫し創造しようとする実践的な態度
家庭科の見方・考え方		
・生活に必要な物資・サービスを購入するために、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承、持続可能な社会の構築をもとに、自立した消費行動ができるようにすること。		
本題材で重点的に働かせる見方・考え方		
・特に持続可能な社会の構築をもとに、選択のための意思決定に必要な「品質・機能」「価格」「環境への配慮」「アフターサービス」等の観点から購入目的に応じて適切に選択できるようにすること。		

4 研究主題に関わって

視点A 題材構想図の工夫

(1)題材における学習内容と将来や社会とのつながりの明確化

将来だけでなく、現在も消費生活を送っている私たちがよりよい消費生活を送るためには、商品をどう上手に選択するかが大切になってくる。題材の始めや本時においても実生活での失敗例から情報整理の必要性を感じさせることができるようにする。

視点B 必然性のある課題化

(1)生徒が学ぶ意欲をもつことができる魅力ある導入の工夫

アニメの家族のテレビを例にすることで状況を共通理解をしやすいとする。課題化の前に家族構成や登場人物の好きなことなどを確認し、どんな願いをもっているかをイメージしたうえで課題につなげていきたい。

視点C 主体的な学びを生み出す指導・援助の在り方

(1)個のつまずきに応じた指導・援助の工夫

商品を1つ選ぶだけでなく、どこで購入するかも選択する。そのため、たくさんの情報から願いに合ったものを選択する必要がある。その際、次のようなつまずきがあると想定される。

- ①それぞれのテレビの特徴の情報が読み取れない。
- ②金額だけで判断するなどの1つの視点だけで解決しようとする。
- ③迷って選べない

①については、それぞれの情報がどの視点に対応しているかを理解しきれていないこと、必要な情報がどこに載っているかが理解できていないことが考えられる。そのため、どこにどんな情報が載っているかを個別で確認する必要がある。

②については、この家族にとって本当にそれだけで「みんなが納得するのか」をもう一度考えることができるようにする。

③については、視点としての優先順位を考えさせ、そのうえで判断するといことを伝えていく。

ただ何となくではなく、根拠となる情報をもとに選択する必要がある。そのため、情報を整理できる学習プリントにまとめながら商品を選択できるようにする。

(2)意図的な学習形態の工夫

交流時には最初は3～4人の少人数のグループで話をする。どんな視点で考えたかを話し合い、まとめていく。うまく伝わらなかった場合は質問をするなどして、自分の考えた視点を明確にしていく。その後多様な視点が出るように全体で発表する機会を設ける。

(3)効果的なICTの活用

普段高額な電化製品を購入する機会が少ない生徒にとって、テレビは自分の意思で選んだことがほぼないと考えられる。また、比較するために必要な情報を得るにも専門的な言葉が多くあり、商品に関する情報は限られた文字で読み取るだけだと難しいと想定される。インターネットを使って知りたいことを自分で調べながら情報を整理していく。

5 本時のねらい

商品を選択する活動を通して、後悔しない買い物をするためには、商品の情報を集めて情報を整理する必要があることに気付き、品質・機能、価格、アフターサービス、環境への配慮等の視点から総合的に判断して商品を選択することができる。

6 本時の展開(5/5)

	学習活動(生徒の反応、意見)	指導・援助(■研究内容 ○手立て)
つかむ	1 ある家族の大切なテレビが壊れてしまった状況を知る。(3分) 父:スポーツ好き。よくスポーツ番組を見ている。 母:ドラマ大好き。機械が苦手。 本人:アニメが好き。絶対見たい番組がある。 妹:かっこいい人が映っている番組をとにかく見たい。 2 本時の課題を把握する。(3分) それぞれの願いに合うテレビを購入するためには何を基準に選択するとよいだろうか。	■視点Aに関わって ○将来だけでなく、現在も消費生活を送っている私たちがよりよい消費生活を送るためには、商品をどう上手に選択するかが大切になってくる。題材の始めや本時においても実生活での失敗例から情報整理の必要性を感じることができるようにする。A-(1)
	3 この家族がテレビを購入するために必要な条件は何かを確認する。(5分) ・小さい子がいるし、今後お金がかかるからできるだけ支出を抑えたいだろうな。(経済) ・壊れてしまったときに無料で対応してくれるところがよいのではないかな。(アフターサービス) ・見たいテレビを取り合いになるかもしれない。録画機能があるといいだろうな。(機能) ・省エネ家電だと環境にも優しくてよいと考えるだろうな。(環境) 4 それぞれのテレビの特徴から、願いに合う商品だと思うものを1台決定する。(20分) 3で出た視点がどの内容なのかを色分けし、商品の情報と販売している企業から、どの商品をどこで購入するかを決定する。 ・スポーツ番組をよく見る父や見たい番組が重なることも考えて、できるだけ動きがはっきり見えたり録画機能が豊富だったりする1で価格が安いA社がよいな。(機能・経済) ・省エネ家電を買うと今後の支出も抑えられるので、省エネ評価が高い2のB社を選ぼうかな。(環境・経済) ・壊れてしまったときに安心して直してもらえるように、無料の保証期間が長い上に、ある程度価格を抑えられる2のC社がよいな。(経済・アフターサービス) ・この一家は母が機械が苦手なところがあるから、録画一体のテレビのほうが楽に使いそう。3は環境のことを考えてくれる企業だから、よい商品を作ってもらえそうだな。(機能・環境) 5 選択したテレビについて、どのように決定したかを交流する。(8分) 6 交流した内容から、自分の考えについて発表する。(6分) 7 本時の授業の振り返り(5分) 私は最初価格を大切にしたいと考え、一番安く無料で保証をしてくれる2のB社がよいと思っていた。しかし、3を選んだ仲間話を聞いて価格だけでなく環境も大切にするので、電気代も安く済み、経済的な視点で満足のいく商品を選ぶことができたと気付いた。SDGsのことも考えると、自分が同じように商品を買うなら経済的な視点だけでなく、環境のことも考えて商品を選んでいきたい。	■視点Bに関わって ○アニメの家族のテレビを例にすることで状況を共通理解しやすくする。課題化の前に家族構成や登場人物の好きなことなどを確認し、どんな願いをもっていそうかイメージしたうえで課題につなげていく。B-(1) ■視点Cに関わって ○それぞれの視点がどの内容と対応しているのかわかるように、調べる前に色分けをしていく。それぞれのテレビの特徴の情報が読み取れない場合、どこにどんな情報が載っているかを個別で確認していく。 C-(1) ○1つの視点だけで解決しようとする生徒がいた場合、この家族にとって本当にそれだけでよいのかをもう一度考える。C-(1) ○最終的に判断を迷っている場合は優先順位を考えさせ、その上で判断するとよいことを伝える。C-(1) ○ただ何となくではなく、根拠となる情報をもとに選択する必要がある。そのため、情報を整理できる学習プリントにまとめながら商品を選択できるようにする。 C-(1) ○普段高額な電化製品を購入する機会が少ない生徒にとって、商品情報は限られた文字で読み取るだけだと難しいと想定されるため、インターネットを使って知りたいことを自分で調べながら情報を整理する。 C-(3) ○交流時には最初は3~4人の少人数のグループで話をする。どんな視点で考えたかを話し合い、まとめていく。視点の具体的内容がうまく伝わらなかった場合は質問をするなどして自分の考えた視点を明確にしていく。その後多様な視点が出るように全体で発表する場を位置付ける。C-(2) 【評価規準】 ◆思考・判断・表現◆ 品質・機能、価格、アフターサービス、環境への配慮等の視点から商品の情報を集約し、総合的に判断して商品を選択することができる。
考える		
深める		
まとめる		

第2学年「C 消費生活・環境」マネーマネジメントに挑戦しよう 題材構想図(全5時間)

【題材のねらい】 ・消費生活の見方・考え方を働かせ、自分の生活を想起し、物資・サービスの選択・購入や消費行動についても問題を見いだして課題を設定し、金銭管理と購入にかかわる知識及び技能を身に付けるとともに、課題を解決する力や自立した消費行動を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付ける。	【単元での評価規準】 <知識・技能> ・購入方法や支払い方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性、売買契約の仕組みについて理解するとともに、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。 <思考・判断・表現> ・物資・サービスの選択に必要な情報を活用し、持続可能な社会の構築などの視点から物資・サービスの選択、購入方法や支払い方法等について考え、工夫できる。	【将来や社会とのつながり】 ・私たちは誰もが消費者であり、物資・サービスを購入して生活をしている。今は家族の誰かにお金を支払ってもらって生活をしている中学生も、数年後には自分でほとんどの物資・サービスを自分で支払って生活することになる。生徒はお小遣いやお年玉の範囲であれば商品購入の経験はあるが、ほとんどは少額の物資である。そのため、本題材では月単位での収入やサービスにも代金を支払っていること、代金の支払いが多様化していること、また、18歳から成人年齢になったことにより購入には責任が伴うことを理解させることでより自分が納得のいく買い物ができるようにさせたい。
【題材開始時の生徒の意識】 ・商品を購入する際、ただ何となく「安いから」「かわいいから」「限定に惹かれて」「みんなが使っているから」といった理由で、購入していた。	<主体的に学習に取り組む態度> ・よりよい生活の実現や持続可能な社会の実現に向けて、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自らの消費生活を工夫し創造できる。	【題材終了後の生徒の意識】 ・限られた金銭で生活をしていくには、自分で計画を立てて本当に必要か、それで自分の生活がよくなるかを考えて物資やサービスを購入したい。1つ1つの買い物には責任が伴うため、ただ何となく買うのではなく、商品の情報を吟味し、真剣に購入場所、支払い方、選んでいく必要がある。そのためには自分の願いを明確にした上で、どこで買うか、どういう支払い方をするとより自分が満足できるかを考えたい。

より無駄なく自分の願いに合う買い物をしていくために大切なことは何だろうか。

第1時 オリエンテーション

【☆主体的に学習に取り組む態度】

【◎思考・判断・表現】

- Aさんの消費生活の問題点を見つけることを通して、自分の消費生活の問題を見出し、課題解決に必要な見方考え方に気付くことができる。
- ◆Aさんの消費生活から、自分の消費生活の課題点を見つける。
- ・Aさんの生活は無駄な買い物が多く、お金だけでなく環境の面でももったいないと思った。無駄がないように買うためにはどうすればいいだろう。

第2時 金銭の管理 【◎知識・技能】

- 自分の生活は、限られた収入をもとに成り立っていることに気づき、計画的な金銭管理の必要性について理解できる。
- ◆Aさんの1か月の生活から問題点を見つけ、物資・サービスをどのように購入するとよかったか伝えることができる。
- ・限られたお金でやりくりをしないと赤字になってしまうため、自分が普段何にお金を使っているかをしっかり把握し、本当に必要なものをよく考えて買う必要があると分かった。貯蓄までできるようになりたい。

第3・4時 購入方法・支払方法の選択 【◎知識・技能】

- 購入方法・支払方法のそれぞれの利点・欠点を理解し、状況に応じて物資・サービスの購入時に適切に選択ができる。
- ◆購入方法・支払方法の利点と欠点をまとめ、提示した状況と購入する商品を、理由を明確にして選択する。
- ・購入方法も支払方法もそれぞれ利点や欠点があるため、状況をよく考えて適切な方法を選びたい。

第5時 商品の選択と購入 【◎思考・判断・表現】

- 商品を選択する活動を通して、後悔しない買い物をするには、商品の情報を集めて情報を整理する必要があることに気づき、品質・機能、価格、アフターサービス、環境への配慮等の視点から総合的に判断して商品を選択することができる。
- ◆モデル家族が商品を購入する場面から、それぞれの家族の願いをまとめ、その願いに合う商品を選択する。
 - ・経済(本体価格・送料・電気代など)
 - ・環境(省エネラベル・消費電力など)
 - ・アフターサービス(保証期間・保証価格・保証内容など)
 - ・安全性・機能(転倒防止・録画・音質・画質など)
 選択したものを理由を明確にして伝える。
- ・価格だけでなく環境も大切にすることで電気代も安く済み、経済的な視点で満足のいく商品を選ぶことができると気付いた。自分がこれから商品を買うなら、経済的な視点だけでなく、環境のことも考えて商品を選んでいきたい。

英語科学習指導案(第1公開)

1 単元名 Unit8 A Surprise Party

2 本時のねらい 現在進行形と日頃の習慣を表す表現との違いを理解し、今していることを伝えることができる。

3 本時の展開(1/8)

	学習活動(・生徒の反応、意見)	指導・援助(■研究内容 ○手立て)
つかむ	1 Warming Up(8分) 英単語3問テストをする。 Drill Max(基本文をまとめたプリントを読む練習)に取り組む。 ・前回より多く読みたいな。 p.56を参考に、ペアで対話する。 ・なるべくたくさん質問したいな。	■視点Bに関わって ○英単語を覚える機会を増やす。B-(1) ○英文に慣れることで日常生活でもスムーズに言えるようにする。B-(1) ○伝えたいことを簡単な言葉やジェスチャーを使って、自分なりに表現することができるようにする。 B-(2)
	2 会話内容を聞き取る。(7分) JETとALTのやり取りから本時の課題を確認する。 J: Hi, Tom. What are you doing? A: Hi, Nakamura sensei. I'm reading a book. ・今していることを聞いているのかな。 ・もう一回聞きたいな。	○今していることについての会話であることに気付くことができるようにする。B-(1) ○わかりやすい会話内容にして、理解しやすくする。B-(2)
考える	3 本時の課題を確認する。(10分) 「今していること」を表現できるようになろう。 もう一度会話を聞き、英文を板書する。 既習の英文との違いに気付く。 be 動詞と動詞ingで表現することを知る。 ・何となくこんなふうに聞こえるけど、合っているのかな。 ・readは聞こえたぞ。	■視点Cに関わって ○板書することで、現在進行形を使った文の特徴を気付きやすくする。C-(1) ○ゲーム感覚で取り組むことで、楽しみながら理解を深めることができるようにする。C-(2) ○教師の質問につぶやくことで自分の考えを整理する。C-(1)
	4 ジェスチャーゲームをする。(15分) 前後でペアになり、ジェスチャーをする。前向きの生徒は教師が見せるカードを見てジェスチャーをする。後ろ向きの生徒は「You are ~ing.」の英文で答える。 ・まだよくわからないから、家でワークを解いて復習しよう。 ・現在進行形の文がよく分かった。 ・自分でも言えた。	○ジェスチャーゲームで話す力を付ける。C-(2) ○仲間の動きをしっかりと見て、想像することができるようにする。C-(2) ○現在進行形の文を声に出して話す活動を位置付ける。C-(2) ○間違いを恐れず、挑戦する姿を褒め、価値付ける。C-(2)
深める	5 動画を見て練習する。(5分) 動画に出てくる問題に取り組むが、7秒ぐらいで解かなければならないので、集中して正解にたどりつき達成感を得る。 ・「現在進行形」の形が分かった。 ・何かまたややこしいのが出てきた。英語って難しいな。 ・訳が分からない。どういうことかな。 ・何問かやってみたら、分かるようになった。	○何問もやって、現在進行形の文に慣れる。C-(1) ○動画でヒントを出しながら、正解にたどり着くように励まし、理解を深めることができるようにする。 C-(3)
	6 本時の授業の振り返りをする。(5分) 教師たちの対話を聞いて、本時の学習の振り返りにつなげる。	○問題を解き正解することで、自信を付けることができるようにする。C-(1)
まとめる	次回は本文の読み取りをする。現在進行形の文に注意して、内容を理解する。	■視点Aに関わって ○電話など日常会話で、「今していること」のやりとりはよくあることを確認する。A-(1)
	次回の学習内容への具体的なイメージをもつ。	【評価規準】 ◆知識・技能◆ 現在進行形を用いた文の形・意味の理解をもとに、今していることについての対話の内容を聞き取ることができる。

1 単元名

Unit5 A Legacy for Peace

2 単元について

本単元は、インドの民族独立運動の最高指導者であるガンディーの非暴力を扱った内容である。ガンディーの非暴力を基本とした独立運動の内容を通して、「理不尽なことに屈しない心」「暴力に訴えない行動」について、深く考えることができるようにしたいと考えている。

言語材料としては、関係代名詞の諸用法が扱われている。これまで、前置詞句による後置修飾や不定詞による後置修飾、現在分詞や過去分詞による後置修飾などを学習してきたが、それらの知識も振り返りながら、関係代名詞の学習に取り組むことができるようにする。そのようにして既習内容と関連させながら、人や物をさらに具体的に説明する方法について理解させるとともに、それらを用いて簡単な自己表現ができるように指導していきたい。

3 本単元で育みたい資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・後置修飾や関係代名詞について特徴やきまりを理解すること ・社会的な話題(平和を支えてくれている人物など)について、即興的に説明する技術を身に付けること	・平和を支えている人物について、ALTやクラスメイトに分かりやすく伝えるために、経験したことの例示などとともに、聞き手の理解に応じて繰り返したり、強調したりしながら話すこと。	・平和について学習し、考えることで社会的な文化に対する理解を深め、聞き手の理解に配慮して主体的にコミュニケーションを取りながら、平和を支えている人物について話す態度を養うこと
英語科の見方・考え方		
・外国語によるコミュニケーションの中で、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかという、物事を捉える視点や考え方であり、外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。		
本単元で重点的に働かせる見方・考え方		
・ガンディーの非暴力を扱った内容を学習することによって、「平和とは何か」「私たちの身の回りにある平和を支えている人は誰なのか」について考え、聞き手の反応を見ながら、平和を支える憧れの人物についての自分の意見を即興でより詳しく伝えることができること。		

4 研究主題に関わって

視点A 単元構想図の工夫

(2)学びの連続性の明確化

第1時において、平和とは何か、平和を支える人物について考え、一度話してみる活動を通して、単元の見通しをもち、単元末に第1時と自分の姿や成長を比べることができるようにする。また、単元の前半は、ガンディーの歴史や功績についての社会的な内容から平和について考え、後半では自分の生活に置き換えて考えることができるようにしていく。単元末の第9時には、単元の学びを活かし、人だけではなく物を紹介する場面においても汎用性があることに気づき、違うテーマでスピーチをする。

視点B 必然性のある課題化

(1)生徒が学ぶ意欲をもつことができる魅力ある導入

導入において平和に関するプレゼンテーションを見せて、生徒に平和とは何かを問いかけながら考えることができるようにする。その導入からスモールトークにつなげ、一度、自分にとって平和を支えてくれている人物について即興で話をする場を設けることで、生徒が自分のオリジナルの考えを整理することができるようにする。また、単元のゴールに向けて自分の考えを構築していくための第6時(本時)であるため、他の生徒と意見を交わすことやマッピングを使用することを通して、自分のスピーチをよりよくしていこうとする態度を育てたい。

(2)本時「どのような力を付けるのか」「何を考えたり深めたりするのか」生徒が分かる課題設定

第5時(前時)の学習において、人物の魅力を伝える際には、自分の思いも一緒に話すとよいことを指導しているため、本時では、その工夫を生かして話すことを中間交流の際に気付くことができるようにする。また、自分の平和にとって大切な人について紹介する際には、理由や自分の思いについてマッピングを使って考えを整理し、その人物や自分にとっての平和に関連する情報を具体的に話せるようにしていきたい。

視点C 主体的な学びを生み出す指導・援助の在り方

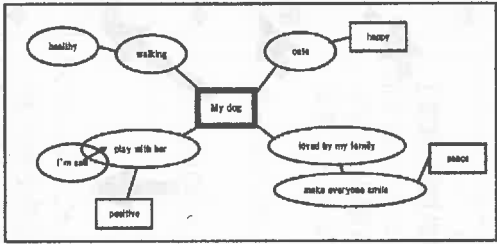
(2)意図的な学習形態の工夫

本時は、固定された一人のペアだけでなく複数人とスピーチの内容を交流することで、様々な表現方法に触れ、スピーチ改善や向上に役立てることができるようにする。また、相手のスピーチを聞き、フィードバックや質問をすることによって、理解度や通じやすさが違う様々な人がいることに気づき、相手に合わせて情報を付け加え、即興で伝えようとする力を身に付けたい。

5 本時のねらい

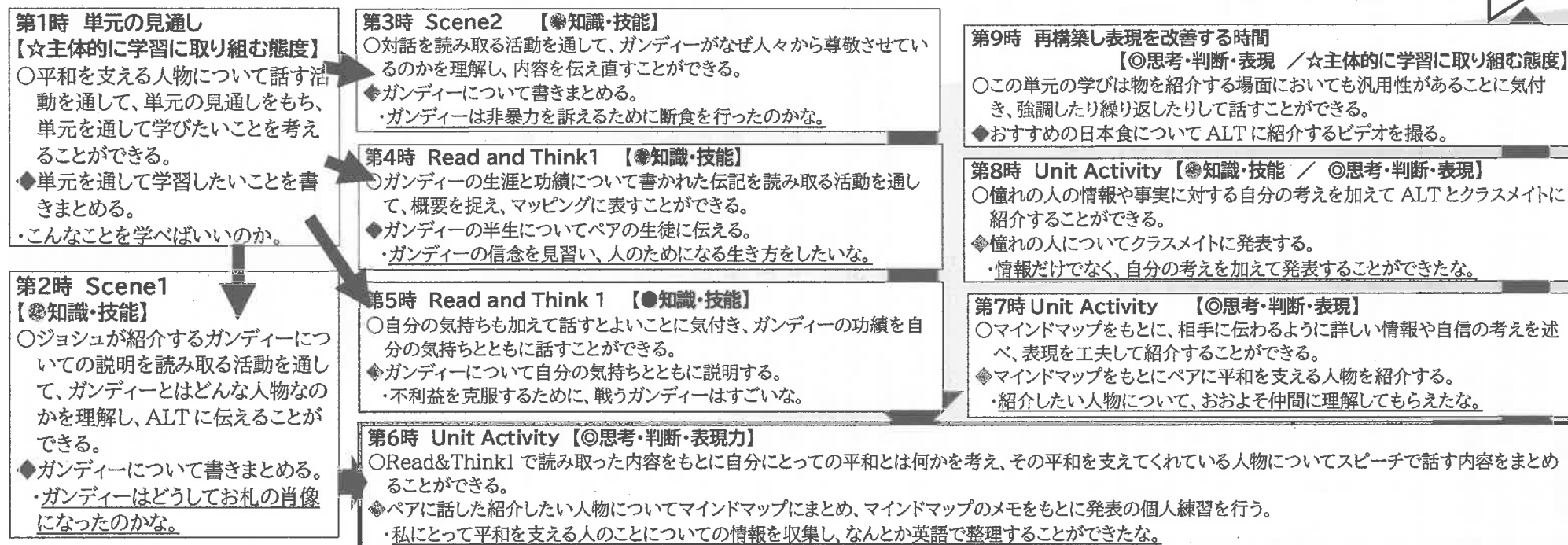
自分にとっての平和を支えている人物についてスピーチで話す内容をまとめることを通して、事実だけではなく自分の気持ちを整理し表現することの大切さに気づき、簡単な語句や文を用いて伝えることができる。

6 本時の展開(6/9)

	学習活動(・生徒の反応、意見)	指導・援助(■研究内容 ○手立て)
つかむ	1 Introduction(5分) 社会的な問題から日常的な出来事までの幅広い写真等を見て、自分にとっての幸せとは何かを考える。	■視点Bに関わって ○日常生活にあるありふれた平和や、自分の好きなことや趣味に関連する平和に気づき、自分の立場や思いで伝えることができるようにする。 B-(2)
	2 Small Talk(5分) “When do you feel at peace?” 第1時で平和を支える人物について考えた経験や、教科書本文で読み取った内容をもとに、自分にとっての平和について考える。 ・I feel at peace when I eat my mother's food.	
考える	Who is an important person for your peace?	○身の回りの平和について考え方を变えることで、自分の今の生活と関連させて考えようとする意欲向上につなげる。B-(2) ○前時まで学習してきたガンディーについての内容を、社会的話題は平和の一例として提示する。 B-(2)A-(2)
	3 Activity1(4分) w/A pair 課題にあるテーマで、自分にとっての平和を支えている人物についてペアで紹介し合う。 ・Otani Shohei is an important person for my peace. Because he is a good baseball player. He gave me a power to play baseball.	
深める	4 Sharing Time1(5分) 教師が抽出した生徒のスピーチを聞いてよかったところについて考え、人物の紹介をする際には、自分の気持ちも一緒に付け加えるとよいことを思い出す。 ・He said his feelings about the person.	■視点Cに関わって ○交流するペアを変えながら活動を行うことで、様々な表現に触れ、表現を取り入れたり参考にしたりすることによって、自分のスピーチをよりよくすることができるようにする。C-(2) ○相手に伝わりやすいように相手意識をもち、自分が話した時の相手の表情や反応を確認しながら話したり、ペアからアドバイスをもらったりして自分のスピーチを客観的に捉えることができるようにする。C-(1)(2)
	5 Activity2(4分) w/B pair 4を通して、自分の気持ちを付け加えて再度スピーチをする。 ・Otani Shohei is an important person for my peace. Because he is a good baseball player. He gave me a power to play baseball. <u>He is so cool because he plays in the world.</u>	
まとめる	6 Sharing Time2(5分) 仲間が使っている表現を交流する。 ・who(習ったことを活用して具体的に人物紹介しようとしている) ・he is good at singing(表現の幅が広がる)	○2 回目の話す活動では、1回目よりもスピーチ改善が図れるように、前時学習した表現技法である「自分の気持ちを入れながら話す」ということを意識できるように促す。C-(2) ○考えをまとめる際の視点が曖昧な生徒は、書き込んだ内容が交流できるように、ICT を活用しアプリで仲間のマッピングを見て自分のスピーチに活かすことができるようにする。C-(3)
	7 再構築(5分) 5でうまく伝えることができなかった内容について、どのような表現を使えば伝えることができるのかを考えマインドマップに書き加える。	
		■視点Aに関わって ○前時までにはガンディーの歴史や功績についての社会的な内容から平和について考えていたが、本時では焦点を変えて自分の身近にも平和やそれを支えてくれている人がいることに気付くことができるようにする。A-(1) ○単元末の活動を想像・意識しながら、目指す姿に向けて、本時はスピーチの土台作りを行う。また、前時までに習った表現技法(自分の気持ちを加えて話すこと、詳しい情報を話すこと)を自分のスピーチに取り入れるように交流の時間を設ける。A-(2)
	8 Activity3(4分) w/C pair 7で整理したマッピングを見てスピーチをし、交流する。	【評価規準】 ◆思考・判断・表現◆ 自分にとっての平和を支えてくれている人物について、自分の気持ちを入れながら話すことができる。
	9 作成したマインドマップをもとに、個人練習を行う。(10分) 実際にスピーチを行うことを想定して、話す順番や表現方法を変えながら練習する。	

【単元のねらい】 ・平和を支えている人物について ALT やクラスメイトに分かりやすく伝えるために、その人物がしたことなどの事実や自分の考えなどを経験したことなどの例示などとともに、聞き手の理解に応じて繰り返したり、強調したりしながら話すことができる。	【単元での評価規準】 <知識・技能> ・後置修飾や関係代名詞について特徴やきまりを理解している。 ・社会的な話題(平和を支えてくれている人物など)について、即興的に説明する技能を身に付けることができる。 <思考・判断・表現> ・平和を支えている人物について ALT やクラスメイトに分かりやすく伝えるために、経験したことなどの例示などとともに、聞き手の理解に応じて繰り返したり、強調したりしながら話すことができる。	【将来や社会とのつながり】 ・平和の実現に向けて生きている人がいることを知る。その人の生き方から自分の生き方を考える。 ・相手に説明したり紹介したりする際には、自分の思いを入れたり、強調したりすることで、説得力を身に付ける。 ・どのような目的・場面・状況でも、紙に書くことなく、要点を的確に即興で伝えられる。
【単元開始時の生徒の意識】 ・平和(戦争がない状態)を生み出しているのは、教科書に載るような偉人たちだと思う。 ・スピーチは原稿を書いて読むもの。しっかり原稿を作り、それを覚えて、発音よく発表できるようにしたい。	<主体的に学習に取り組む態度> ・平和を支えている人物について ALT やクラスメイトに分かりやすく伝えるために、経験したことなどの例示などとともに、聞き手の理解に応じて繰り返したり、強調したりしながら話そうとしている。	【単元終了後の生徒の意識】 ・平和を生み出しているのは、教科書に載るような偉人たちだけでなく、身の回りの人たちだと気付いた。友人や家族、ペットとの時間を大切にしていきたいと思った。 ・スピーチは原稿を書いて読むものだと思っていたが、メモを基に話してみると、話すことを考えながら話さなければならないため難しいが、聞き手に合わせて柔軟に話し方を変えることもできることに気付いた。

Who supports your peace? 平和を支える憧れの人物について考え、スピーチしよう。



- 1 主題名 多文化の理解を深める
教材名 違いを乗り越えて(C-18)国際理解・国際貢献)

2 教材について

主人公の家にインドネシアからの留学生、A さんがやってきた。食事の際のマナーやあいさつの仕方についての違いがあり、日本では「良い」とされていることも、インドネシア出身の A さんから見ると「失礼だ」と感じる。それを指摘された私は、「A さんを楽しませてあげようと思ったのに」と機嫌を悪くしてしまう。しかし、母の A さんに対する接し方からどのように接したらよいかを考えるようになった。文化や価値観の「違い」を乗り越え、お互いを尊重して生きるにはどうしたらよいかを考える教材である。

3 育成を目指す資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・世界のそれぞれの地域では、文化や伝統、歴史があり、それを違いとして理解すること	・違いを理解し、互いを尊重していきいくためには広い視野で捉え、どのような態度をとるべきか考え判断して行動にうつすこと	・日常生活において他人の思いを尊重して生きていくことに、何が大切なのかを考えて行動すること

道徳科の見方・考え方

・様々な事象を道徳的価値の理解を基に自己との関わりで多面的・多角的にとらえ、自己の生き方について考えること。

本主題で重点的に働かせる見方・考え方

- ・日本のことだけを考えるのではなく、国際的視野に立ち、すなわち、広く世界の諸情勢に目を向けつつ日本人としての自覚をしっかりとって国際理解に努めること。
- ・他の地域や国々はそれぞれ文化や伝統、歴史をもっており、地域や国々の在り方、あるいはそうした地域の国々がもっている理想等を、違いは違いとして理解し、それを尊重していくこと。

4 研究主題に関わって

視点 A 単元構想図の工夫

(1)単元における学習内容と将来や社会とのつながりの明確化

愛3組の学級目標は「共存共栄～人の気持ちを理解し、尊重して生活する～」である。1年生2名、2年生2名、3年生3名の合計7名で、発達段階に応じて様々な価値観をもった生徒が一緒に教室で過ごしている。「互いの思いを尊重し、誰もが安心して過ごすことができるクラスにしたい」という思いを表現した言葉である。本題材で扱う価値項目「国際理解、国際貢献」は、「世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し」という文言がある。これを学校生活に置き換えると、共に過ごす仲間の思いや気持ちを尊重し、理解して生活することであると考え。そこで愛3組は、「国際理解、国際貢献」の学習をする際、学級目標の「共存共栄」と合わせて考えることで、教材が変わっても、考えるべきことを統一できるよう工夫した。

視点 B 必然性のある課題化

(1)生徒が学ぶ意欲をもつことができる魅力ある導入の工夫

導入では日本とインドネシアの文化の違いについて触れる。生徒はインドネシアについて知らないことが多いと思うためである。文化の違いをおさえた上で、「私」や「A さん」の気持ちに共感できるようにしたい。

(2)本時「どのような力を付けるのか」「何を考えたり深めたりするのか」生徒が分かる課題設定

価値項目の理解につなげるためにひとりひとりにあった補助発問を用意した。そのためにひとりひとりの道徳的な価値観を分析し、それぞれの発言を予想して、その場に応じた補助発問をしていきたい。

視点 C 主体的な学びを生み出す指導・援助のあり方

(1)個のつまずきに応じた指導・援助の工夫

発問を用意しているが、生徒の実態を見てみるとこれだけでは自分の考えを発言できないと思われる。そこで一人一人にあった補助発問を用意してそれぞれの生徒が考えやすいように工夫したい。また、仲間の意見についてどのように思うのかを聞き、意見を深められるようにしたい。

(2)意図的な学習形態の工夫

発言に対し、挙手を求めず、自分が思ったときに発言してよいことにする。また、発言が難しい生徒には、まわりの生徒の意見について、「あなたはどの意見に共感できるか」などと問い、自分に似た意見を選択できるようにする。

5 ねらい 日本の習慣や文化のよさを理解するとともに、他の国々の人々や文化に対する理解を深め、尊重しようとする意欲を高めることを通して、仲間の思いや気持ちを尊重することの大切さに気づき、よりよい学校生活を共に送るにはどうしたら良いかを考える。

学習活動							指導・援助(■研究内容 ○手立て)
							■視点Bに関わって
導入	インドネシアと日本の文化の違いについて知る。 ・位置 ・言語 ・食事のマナー ・食べ物 ・食に対する考え						○その後の展開で生徒が施行しやすいように、 教材と関係ある内容をおさえる。B-(1)
つかむ	教材を読んで内容を理解する。						■視点Bに関わって
考える	Aさんはどんな思いで刺身を食べ続けたのだろう。						○OK.SとY.Nは教材内容を把握することに困難 さがあり、教材の前半部分を忘れがちである。 そのためさし絵を見せながら確認を行う。ま た、H.Hは学習内容をよく覚えているので、内 容を発言させることで全体に共有していく。 B-(1)
	・日本にいるから。 ・いるからってどうい うこと。 ・周りも食べている。 ・K.Sさんも合わせる ことある。 ・交流学級との活動 で、少し無理して合わ せてしまうなあ。	・気持ち悪い。 ・何が気持ち悪い の。 ・食べたとき。 ・なんで食べたの かな。 ・食べなきゃいけ ないから。	・そこにあるから。 ・そこにあるからっ てどういうこと。 ・そのままの意味。 ・そんな風に食べら れるかな。 ・知らない。 ・我慢していたかも しれないね。	・気持ちわかる。 ・どういうところが。 ・なんか気持ち悪 い。 ・なんで食べ続けた のかな。 ・まあ、日本に来た からじゃない。	・無理。 ・何が無理やったの かな。 ・わさびの味 ・途中でやめたいの にね。 ・やめたいけど、大 丈夫と言った手前、 難しいかも。	・F.Mさんはどう思 う。(無言) ・どの意見に共感でき るかな。(板書を指さ しながら聞き、うなず いたものを意見とす る。)	・仕方ない ・仕方ないってどうい うこと。 ・大丈夫って言ったか ら。 ・諦めているかな。 ・目の前にあるから食 べるしかない。
	私は、なぜすっきりしない気持ちだったのか。						■視点Cに関わって
	・どうしたらいいかわ からない。 ・困っている感じだ ね。 ・うん。でも、謝ったほ うがいいのかなと思っ ているかな。	・もう嫌。 ・何が嫌なの。 ・けんかになった から。もう連れて いきたくない。	・わからない。 ・「もういい」と言わ れてどんな気持ちだ ったのだろうね。 ・嫌だった。 ・何が嫌かな。 ・Aさんの言い方。	・日本では当たり前 なものにな。 ・蕎麦の食べ方か な。 ・日本ではこう食べ るから仕方ないや ん。	・わけわからない。 ・怒っているかな。 ・「私」の言い方も悪 いけど、「もういい」 だけでは伝わらな いと思う。私もそれ じゃわからない。	・F.Mさんはどう思 う。(無言) ・どの意見に共感でき るかな。(板書を指さ しながら聞き、うなず いたものを意見とす る。)	・せっかく連れてきた のに。 ・せっかくってどんな 気持ち。 ・Aさんに蕎麦を食べ させようとした。音を 立てるのは当たり前。
							○導入で確認した食事のマナーや、食文化の違 いについて押さえておく。さらにK.Sは交流学 級との活動に無理をでも参加しようと考えて いる傾向があるので、「Aさん」の気持ちに共 感させることで全体に共有したい。また、F.M は場面緘黙で話すことが難しいので、意見を 板書に位置付けておく。C-(1) ○発問に入る前に、私のそば屋での態度につい て押さえておく。そば屋で「私」が、「Aさん」に 日本の文化を押し付けいることを理解させた い。その上でH.HはSNS上のコミュニケーション で、「私」のように人とのすれ違いを感じやす い傾向にあるので、「私」の気持ちとともに共 感させることで、全体に共有したい。C-(1)

							指導・援助
深める	◎母がAさんと話しているとき、どんな気持ちで話しているのか。						■視点Cに関わって ○「母」と「Aさん」のコミュニケーションの取り方について押さえた上で発問する。英語の辞書を引きながら伝えようとしていることや、片言の英語や知っているだけの日本語を使って話していることに注目させたい。そこから、お互いの思いを理解したいという「母」や「Aさん」の気持ちを考えさせ、「私」との違いを理解させる。C- (1)
	・Aさんのことをしりた い。 ・どうして。 ・これから一緒に生活 していくから。	・英語で話そう。 ・なんで。 ・日本語わからな いから。	・どんな気持ちかわ からん。 ・なんで辞書使った のかな。 ・それがないとしゃ べれないもん。	・英語ならわかるか も。 ・なぜ英語で話そう と思ったの。 ・もっと話したい。	・英語がうまく話せ ないけど、Aさんと なんとか話したい。 ・そこまでしてAさ んとなぜ話したい か。 ・国際交流員の仕 事をしているし、一 緒に暮らしているか ら。	・F.Mさんはどう思 う。 (無言) ・どの意見に共感でき るかな。(板書を指さ しながら聞き、うなず いたものを意見とする) ・F.Mさんはどう思 う。(無言)	・なんとか英語なら話 せる。 ・なんとかってどうい う気持ち。 ・うまくは話せないけ ど、辞書引けば何とか 伝わる。 ・わからない言葉でも 使って、Aさんをわか ろうとしている。
	補助 「母」と「私」の接し方に何が違うのか。						○K.Aは愛3組の生徒が困った状況にあるときでも優しく声をかけ、助けようとする傾向にあり、相手に合わせようとする母の気持ちに共感させ、全体に共有したい。C- (1)
説話	・蕎麦の食べ方を強 要するのではなく、相 手に合わせて話して いる。	・言葉を選んで話 している。	・さあ、知らない。 ・英語じゃないと話 せないよね。 ・合わせたかも。	・気持ち ・どんな ・相手に合わせた い。	・Aさんの話をよく 聞いて、わかろうと している。	・どの意見に共感でき るかな。(板書を指さ しながら聞き、うなず いたものを意見とす る。)	・まずは話してみて、 相手を知らうとするこ と。
	私たちは外国の人とどのように接してくべきなのか、ノートに書こう。						■視点Aに関わって ○自国の文化と他国の文化を尊重し、違いを認め合って生きていくために必要なことは、相手を思いやる気持ちであり、普段の生活の中でも実行することは可能であると気付けるようにする。A- (1)
	・相手も無理して合わ せているかもしれない から、思いやった言葉 をかける。	・わかる言葉で話 す。 ・何語にする。 ・英語。	・(書こうとしない)・ どんなこと気を付け たい。 ・言葉。	・(書こうとしない) ・どんなこと大切か な。 ・思いやりかな。	・普段から日本にい ないから、わからな いこともあると理解 して接する。	・相手を思いやること が大切。	
	今日の学習と普段の学校生活でつながること。						

【指導のねらい】 ・世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること。	【教材での評価規準】 <知識・技能> ・教材を通し、日本とインドネシアでの価値観の違いを知ること。 <思考・判断・表現> ・発問に対し、主人公やAさんはどのような思いなのか。これまでの自分の体験から考え、発言すること。 <主体的に学習に取り組む態度> ・発言に対し、自分なりに考え、意見を言ったり、人の意見に共感したりして、授業に参加すること。	【将来や社会とのつながり】 ・社会に出て、様々な人と関わる中で、価値観や感覚の違いに共感し、お互いに尊重して生きていくことができる。 ・外国の文化を積極的に知ること、いろいろな国の人の考え方を理解しようといふことができる。
【単元開始時の生徒の意識】 ・得意・不得意なことは人それぞれで、互いのことを自分なりに理解し、仲間を尊重して過ごしていきたい。		【単元終了後の生徒の意識】 ・周りにいる仲間だけでなく外国の人にも特有の文化や考え方がありそれを自分なりに理解することで、相手を尊重して生活することができると分かった。

学級目標 共存共栄～人の気持ちを理解し、尊重して生活をする～

2年生教材
ダショー・ニシオカ

○それぞれの国の伝統と文化に各国民が誇りにもっていることを理解し、日本人として国際協力を積極的に行おうとする実践意欲を養うことを通し、相手の気持ちをよく聞いてより良い意見を考えることの大切さに気づき、仲間の気持ちを尊重して生活していく上で必要なことを考える。

3年生教材
本とペンで世界を変えよう

○国際的視野に立って、自分にできることで世界平和と人類の幸福に貢献しようとする実践意欲を育てることを通して、信念をもって仲間と活動ことの大切さに気づき、仲間と活動する上で大切なことは何かを考える。

1年生教材 違いを乗り越えて

○日本の習慣や文化のよさを理解するとともに、他の国々の人々や文化に対する理解を深め、尊重しようとする意欲を高めることを通し、仲間の思いや気持ちを尊重することの大切さに気づき、よりよい学校生活を共に送るにはどうしたら良いかを考える。

1年生教材
火花に込めた平和への願い

○国際的視野に立って、他国を尊重することと世界平和の大切さを理解するとともに、よりよい社会形成や人類の発展に貢献しようとする実践意欲を高めることの通し、相手の立場に立って考えることの大切さに気づき、互いに協力して生活したり活動したりするにはどうしたら良いかを考える。

2年生教材
海と空―樗野の人々―

○同じ世界に生きる人間として、国や時代を超えて助け合う重要性を理解し、世界平和と人類の発展に貢献しようとする実践意欲を育てることを通し、仲間のために行動することの大切さに気づき、お互いに支え合って生活していくにはどうしたら良いかを考える。

3年生教材
命のトランジットビザ

○国際的視野に立ち、人類愛について理解を深め、世界平和と人類の幸福に貢献しようとする実践意欲を育てることを通し、困難な状況に置かれても自分の信念を貫くことの気高さに気づき、時には困難さを乗り越え仲間のために行動するために必要なことは何かを考える。